

Ⅱ 結果の内容

《地域防災力の充実強化について》

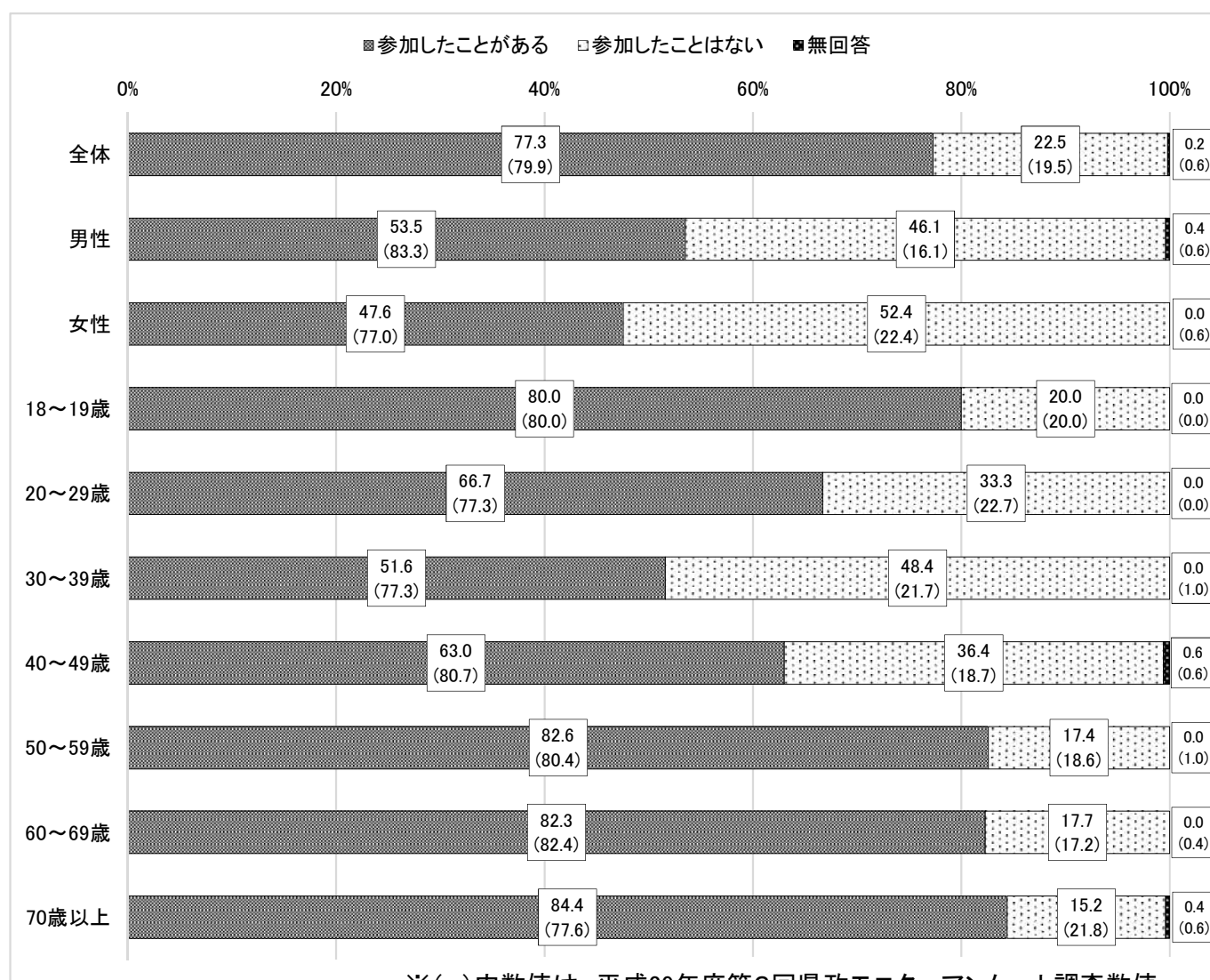
＜地域で実施されている防災活動への参加状況＞
「参加したことがある」が8割弱

問1 地域で実施されている防災活動(防災訓練、講習会等)に、ご本人または同居のご家族の方が参加されたことはありますか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	R1年度 n=999		H29年度 n=971	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
参加したことがある	772	77.3	776	79.9(※)
参加したことはない	225	22.5	189	19.5
無回答	2	0.2	6	0.6

※「積極的に参加している」と「参加したことがある」の合計値

●「参加したことがある」が77.3%となっており、年代別では、70歳以上が84.4%とが最も多く、30代が51.6%と最も少ない。



※()内数値は、平成29年度第2回県政モニターアンケート調査数値

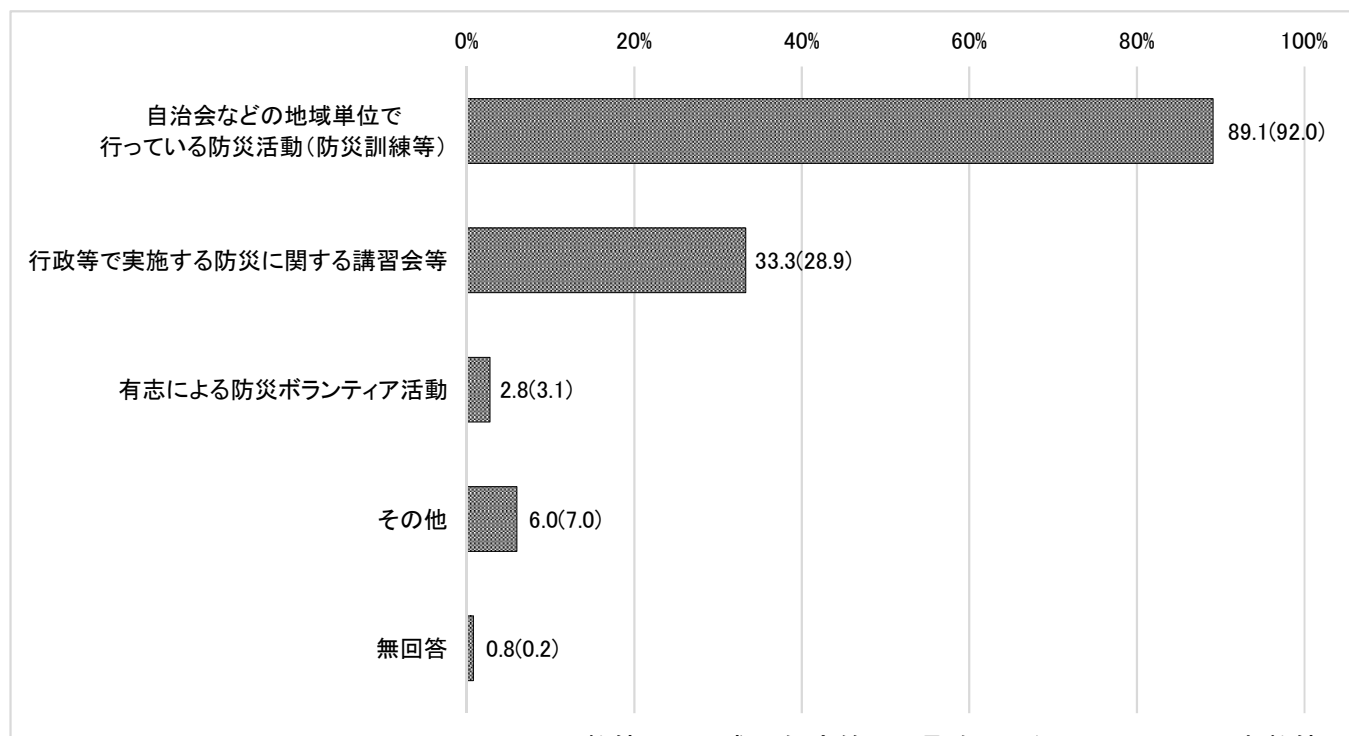
＜参加している防災活動＞

「自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)」が約9割

問2 問1で「参加したことがある」を選ばれた方に伺います。あなたは、どのような防災活動に参加したことがありますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	R1年度 n=772		H29年度 n=776	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)	688	89.1	714	92.0
行政等で実施する防災に関する講習会等	257	33.3	224	28.9
有志による防災ボランティア活動	22	2.8	24	3.1
その他	46	6.0	54	7.0
無回答	6	0.8	2	0.3

●「自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)」が89.1%と最も多く、次に「行政等で実施する防災に関する講習会等」(33.3%)、「有志による防災ボランティア活動」(2.8%)となっている。



その他としては、「市町村や勤務先での防災訓練」、「甲種防火管理者講習」、「長野県総合防災訓練」等の回答が見られた。

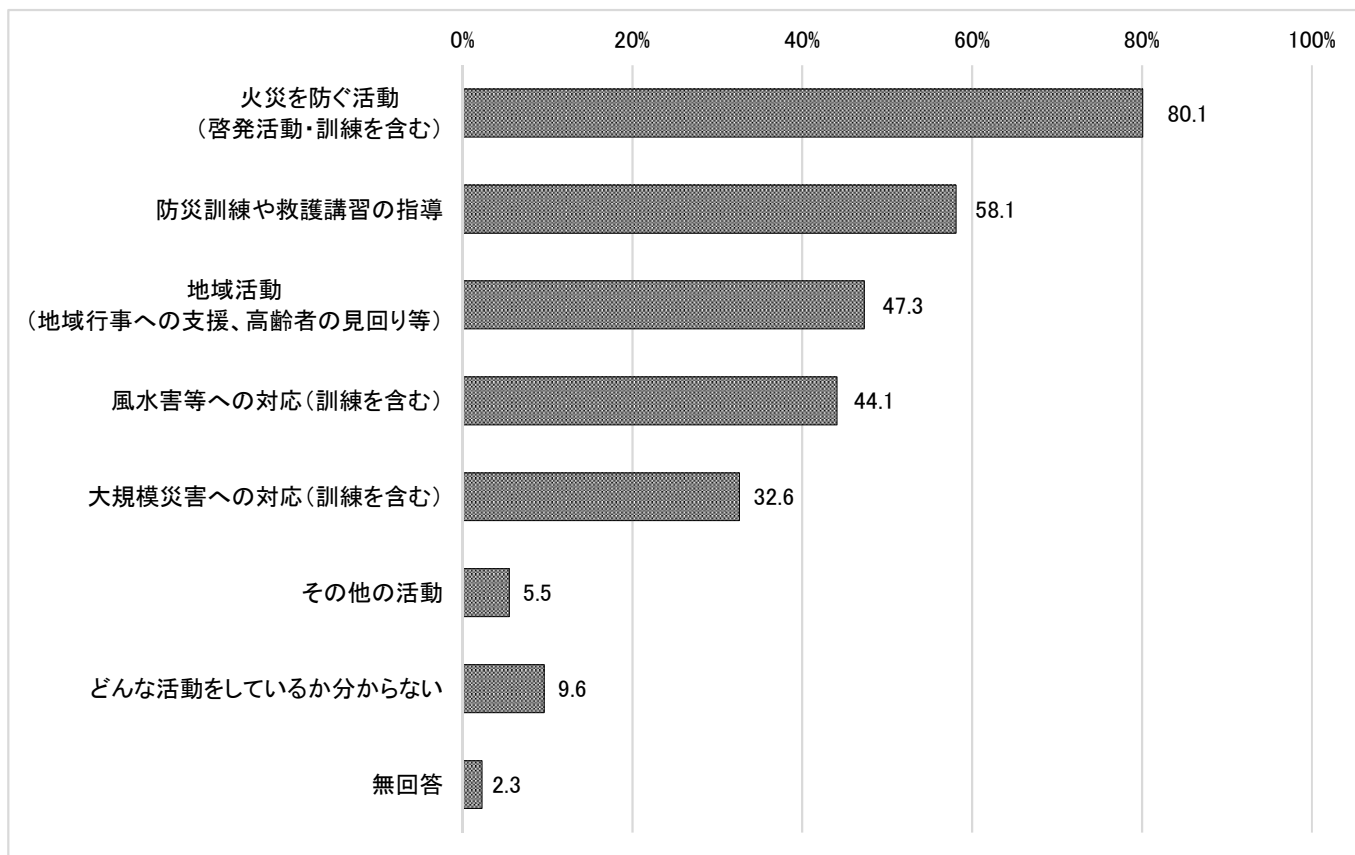
<認知している消防団活動>

「火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)」が約8割

問3 あなたの地域の消防団はどのような活動を行っていますか。ご存知のものを選んでください。
(○はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 999		
火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)	800	80.1
防災訓練や救護講習の指導	580	58.1
地域活動(地域行事への支援、高齢者の見回り等)	473	47.3
風水害等への対応(訓練を含む)	441	44.1
大規模災害への対応(訓練を含む)	326	32.6
その他の活動	55	5.5
どんな活動をしているか分からない	96	9.6
無回答	23	2.3

●「火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)」が80.1%と最も多く、次に「防災訓練や救護講習の指導」(58.1%)、「地域活動(地域行事への支援、高齢者の見回り等)」(47.3%)となっている。



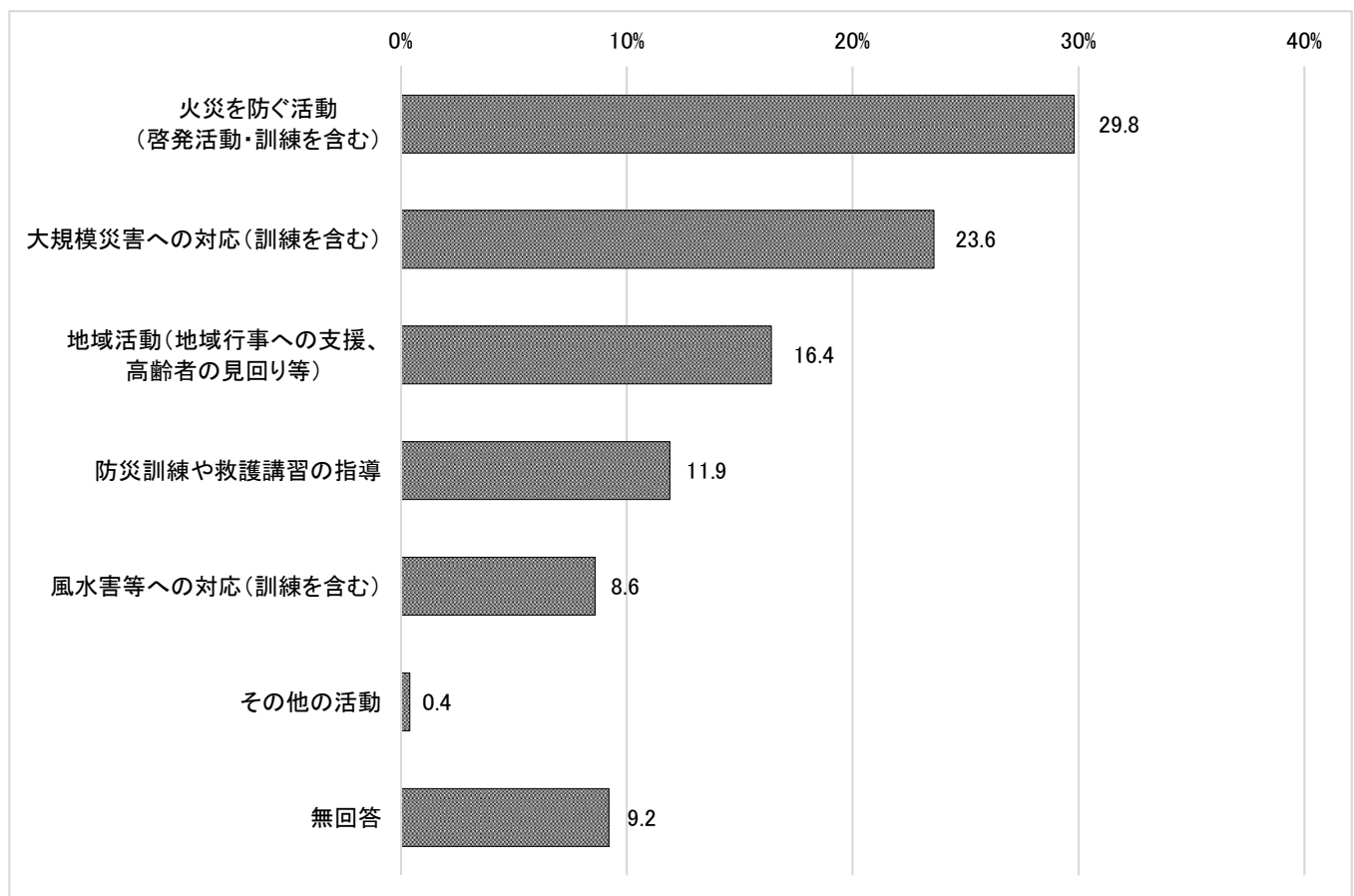
その他としては、「ポンプ車操法訓練・大会」、「行方不明者の捜索」、「地域のお祭等の見回り」等の回答が見られた。

＜消防団に最も重点的に行ってもらいたい活動＞
「火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)」が約3割

問4 消防団は様々な活動を行っていますが、消防団に今後最も重点的に行ってもらいたい活動は何ですか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n= 999	回答数 (人)	割合 (%)
火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)		298	29.8
大規模災害への対応(訓練を含む)		236	23.6
地域活動(地域行事への支援、高齢者の見回り等)		164	16.4
防災訓練や救護講習の指導		119	11.9
風水害等への対応(訓練を含む)		86	8.6
その他の活動		4	0.4
無回答		92	9.2

●「火災を防ぐ活動(啓発活動・訓練を含む)」が29.8%と最も多く、次に、「大規模災害への対応(訓練を含む)」(23.6%)「地域活動(地域行事への支援、高齢者の見回り等)」(16.4%)となっている。



その他としては、「毎年、地域住民に消火栓の使い方講習会を開催すべき(初期消火の大切さ)」、「若い世代が主体なので負担を減らしたほうがよい」等の回答が見られた。

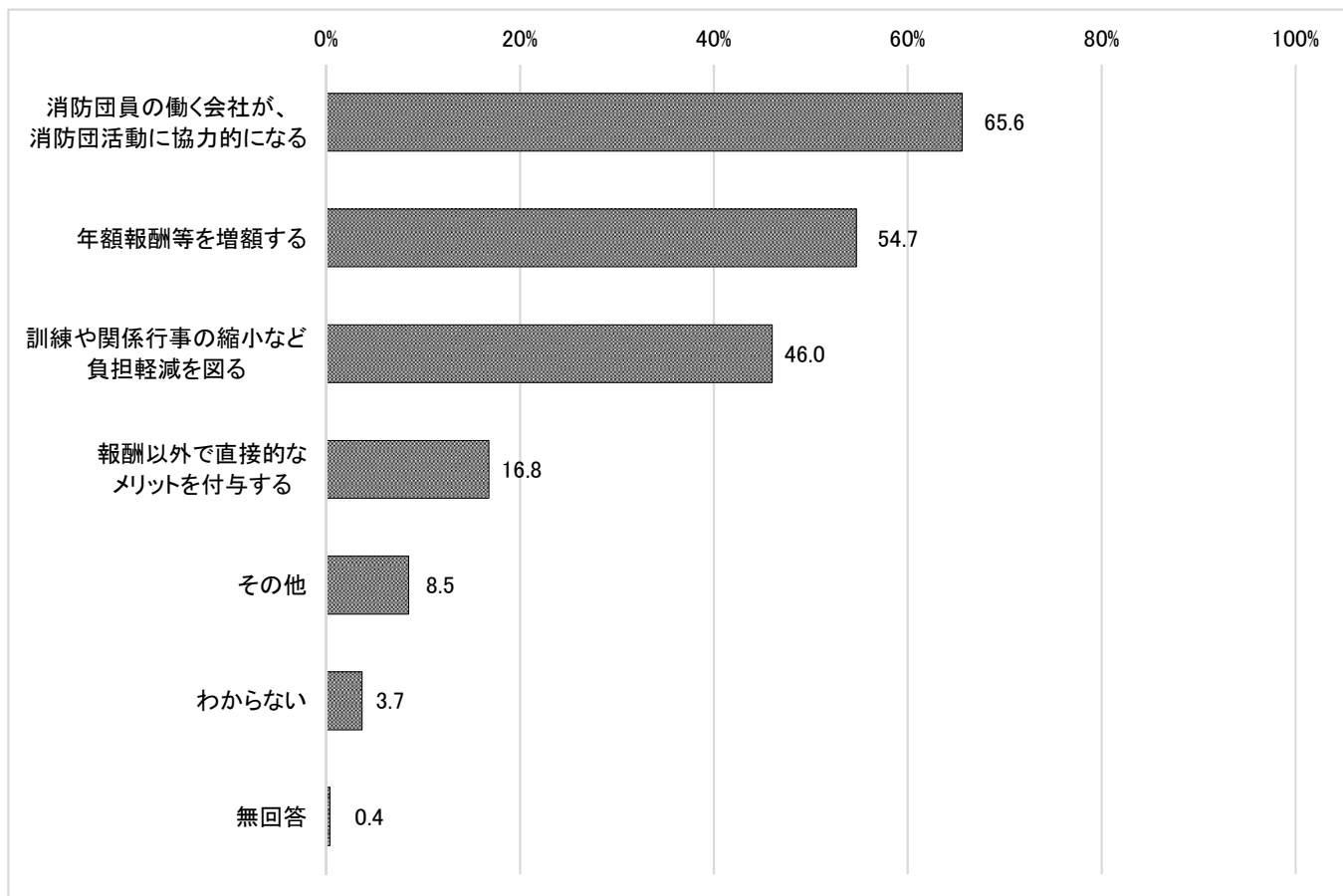
＜消防団活動を維持するための方策＞

「消防団員の働く会社が、消防団活動に協力的になる」が6割超

問5 長野県の消防団員は減少傾向にあります。今後も消防団活動を維持していくための方策として何が効果的だと思いますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 999		
消防団員の働く会社が、消防団活動に協力的になる	655	65.6
年額報酬等を増額する	546	54.7
訓練や関係行事の縮小など負担軽減を図る	460	46.0
報酬以外で直接的なメリットを付与する	168	16.8
その他	85	8.5
分からない	37	3.7
無回答	4	0.4

●「消防団員の働く会社が、消防団活動に協力的になる」が65.6%と最も高く、次に「年額報酬を増額する」(54.7%)、「訓練や関係行事の縮小など負担軽減を図る」(46.0%)となっている。



その他としては、「操法大会への参加が大変な重荷になっているので、縮小又は中止を検討するべき。」、「小・中高生への消防団活動及びその重要性の認知・普及を図るべき」等の回答が見られた。

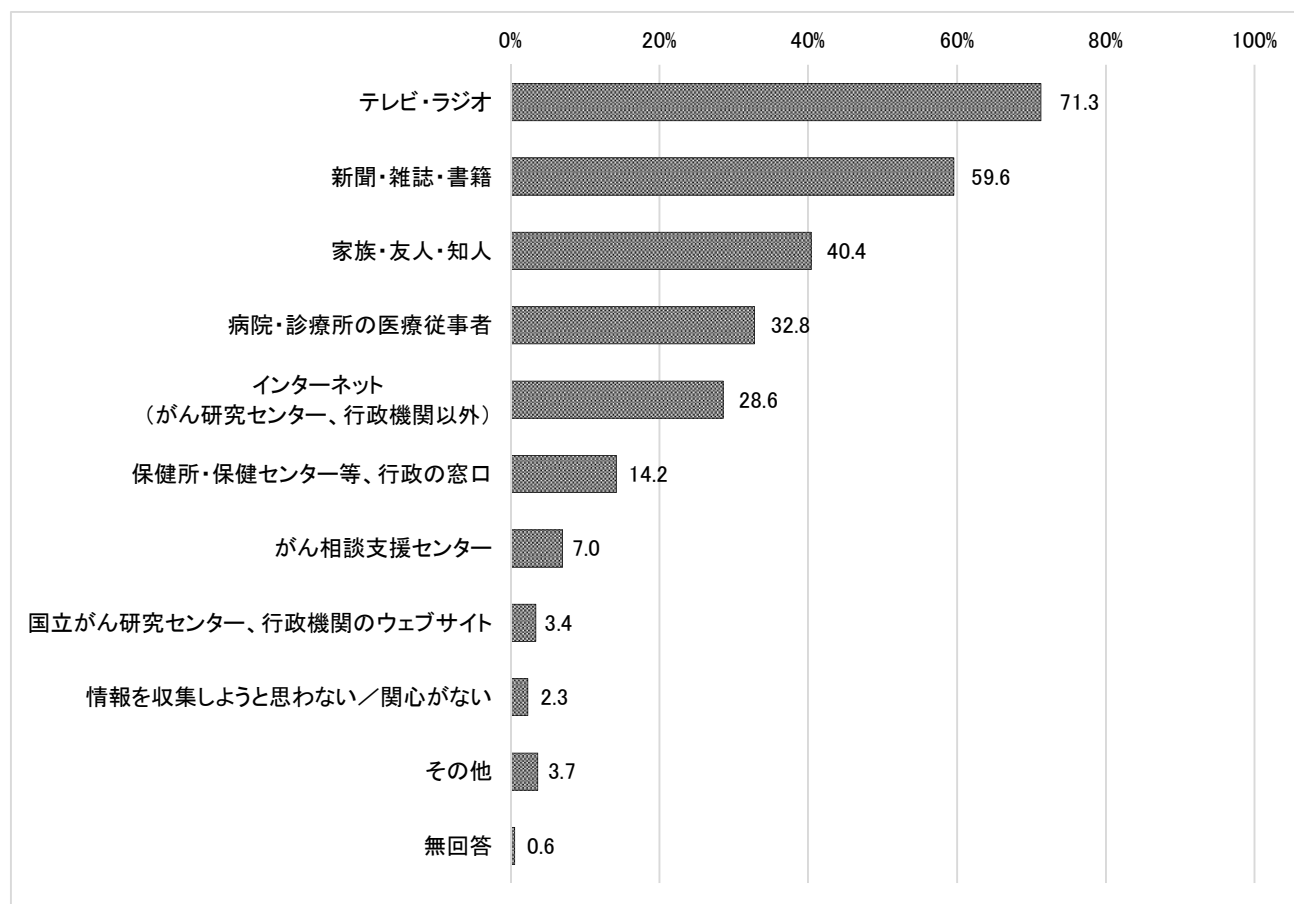
《がん対策について》

＜がんに関する情報収集の方法＞
「テレビ・ラジオ」が約7割

問6 がんに関する情報をどこから収集していますか。当てはまるものを選んでください。
(○はいくつでも)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ・ラジオ		712	71.3
新聞・雑誌・書籍		595	59.6
家族・友人・知人		404	40.4
病院・診療所の医療従事者（医師・看護師など）		328	32.8
インターネット（国立がん研究センター、行政機関のウェブサイト以外）		286	28.6
保健所・保健センター等、行政の窓口		142	14.2
がん診療連携拠点病院等に設置された「がん相談支援センター」		70	7.0
国立がん研究センター、行政機関のウェブサイト		34	3.4
情報を収集しようと思わない／関心がない		23	2.3
その他		37	3.7
無回答		6	0.6

●「テレビ・ラジオ」が71.3%と最も多く、次に「新聞・雑誌・書籍」（59.6%）、「家族・友人・知人」（40.4%）となっている。



その他としては、「市町村からのがん検診の案内」、「職場の健康診断」、「保険会社からの連絡」等の回答が見られた。

＜自身が取り組んでいる、または知っているがんの予防方法＞
 いずれの項目も、「心がけている」と「知っている」を合わせた割合が9割超

生活習慣の改善やウイルスの感染を防ぐことにより、がんになるリスクを軽減することができます。

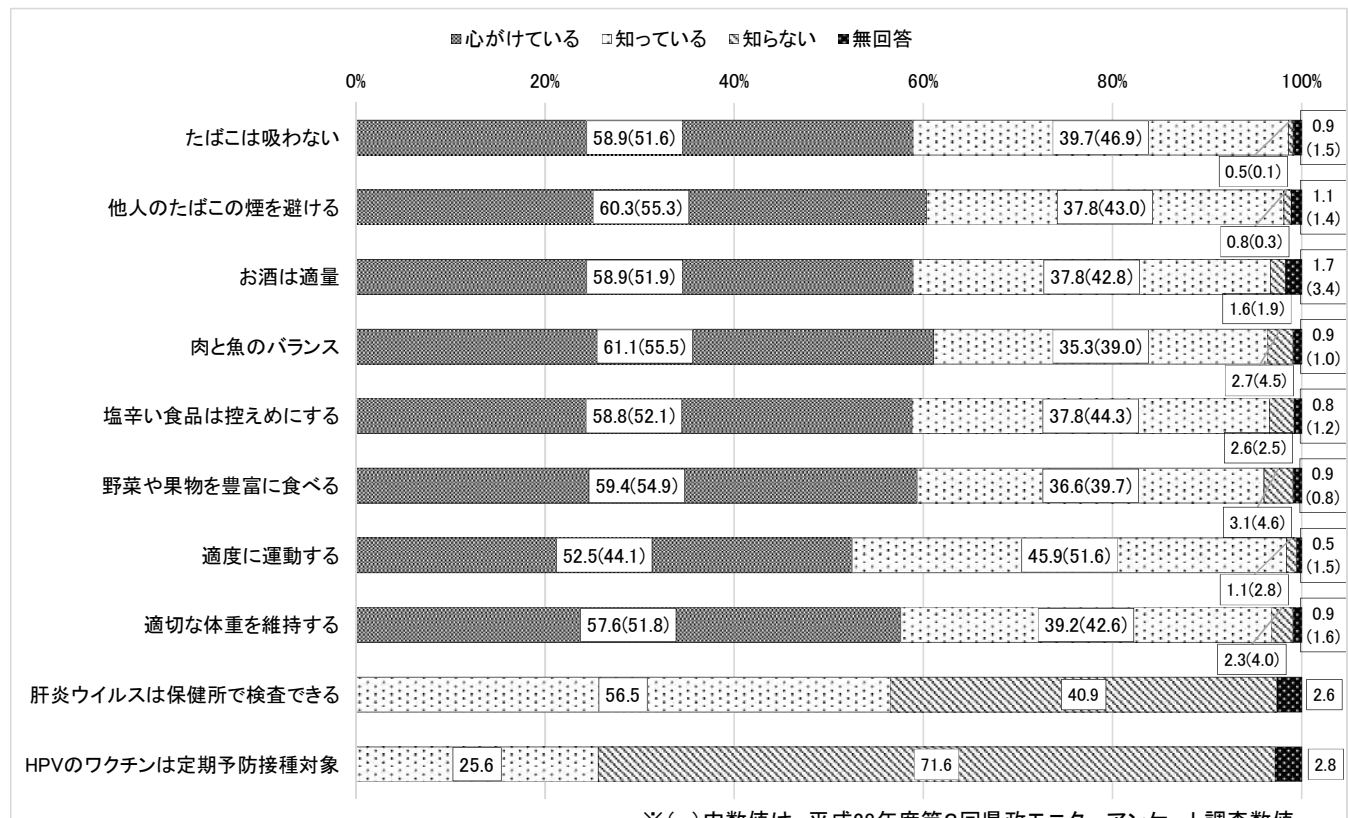
問7 つきましては、がんの予防に関するご自身の取組やご存知のことについて、項目ごとに当てはまるものを選んでください。
 (〇はそれぞれ1つずつ)

	回答人数				割合(%)			
	心がけている	知っている	知らない	無回答	心がけている	知っている	知らない	無回答
n=999								
たばこは吸わない	588	397	5	9	58.9	39.7	0.5	0.9
他人のたばこの煙をできるだけ避ける	602	378	8	11	60.3	37.8	0.8	1.1
お酒を飲むときは適量を心がける	588	378	16	17	58.9	37.8	1.6	1.7
肉と魚をバランス良く食べる	610	353	27	9	61.1	35.3	2.7	0.9
塩辛い食品は控えめにする	587	378	26	8	58.8	37.8	2.6	0.8
野菜や果物を豊富に(1日350グラム以上)食べる	593	366	31	9	59.4	36.6	3.1	0.9
適度に運動する	524	459	11	5	52.5	45.9	1.1	0.5
適切な体重を維持する	575	392	23	9	57.6	39.2	2.3	0.9
n=999								
B型、C型肝炎ウイルスの感染の有無は、保健所で検査することができる		564	409	26		56.5	40.9	2.6
HPV(ヒトパピローウイルス)のワクチンは、定期予防接種の対象である		25.6	71.6	2.8		25.6	71.6	2.8

(参考)H28年度

	回答人数				割合(%)			
	心がけている	知っている	知らない	無回答	心がけている	知っている	知らない	無回答
n=1,018								
たばこは吸わない	525	477	1	15	51.6	46.9	0.1	1.5
他人のたばこの煙をできるだけ避ける	563	438	3	14	55.3	43.0	0.3	1.4
お酒を飲むときは適量を心がける	528	436	19	35	51.9	42.8	1.9	3.4
肉と魚をバランス良く食べる	565	397	46	10	55.5	39.0	4.5	1.0
塩辛い食品は控えめにする	530	451	25	12	52.1	44.3	2.5	1.2
野菜や果物を豊富に(1日350グラム以上)食べる	559	404	47	8	54.9	39.7	4.6	0.8
適度に運動する	449	525	29	15	44.1	51.6	2.8	1.5
適切な体重を維持する	527	434	41	16	51.8	42.6	4.0	1.6
ウイルスや細菌の感染予防と治療	358	462	175	23	35.2	45.4	17.2	2.3

●生活習慣の改善については、項目ごとで回答傾向に大きな差はなかったが、「適度に運動をする」のうち「心がけている」が52.5%と最も低かった。



※()内数値は、平成28年度第2回県政モニターアンケート調査数値

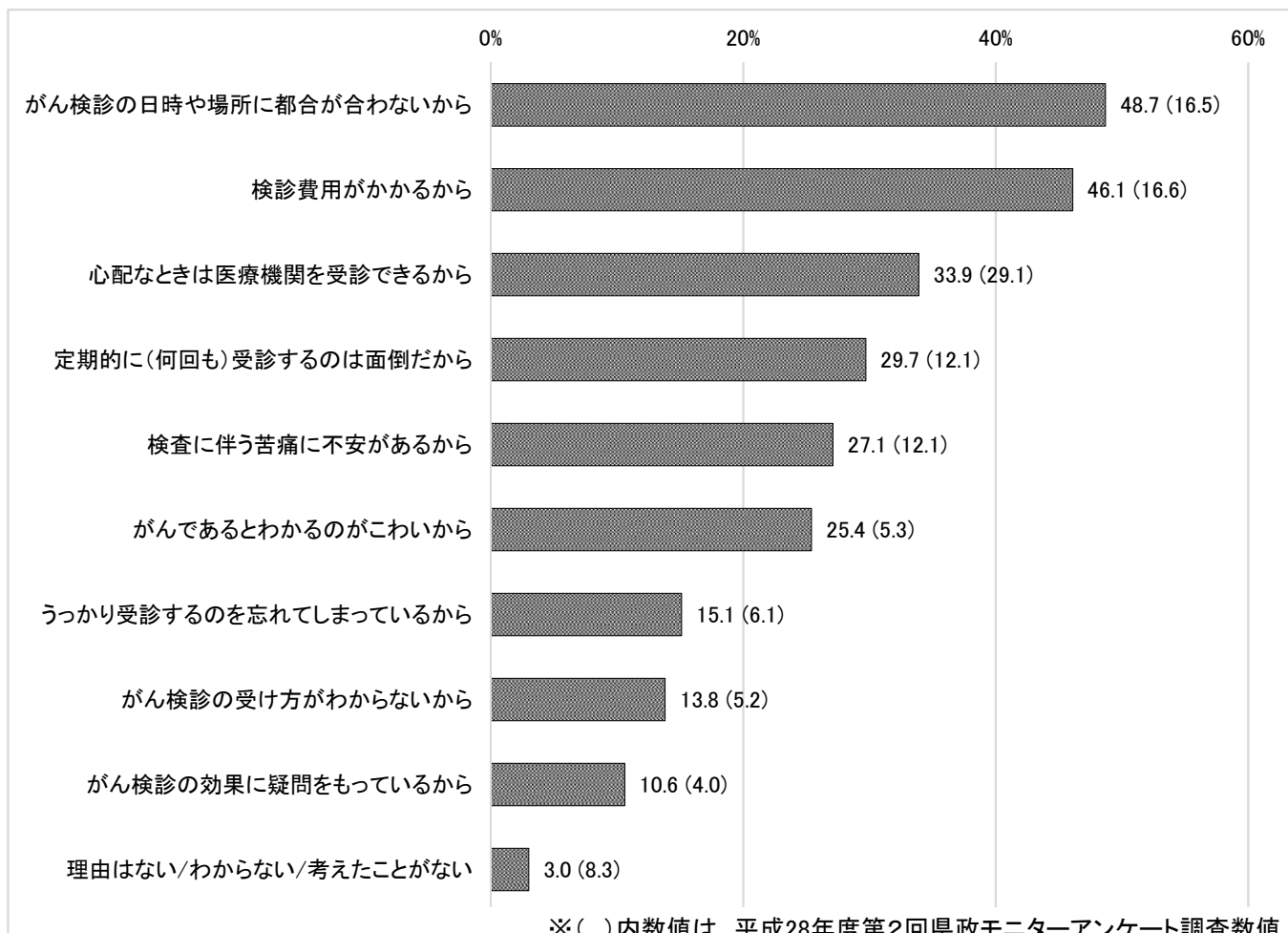
＜がん検診を受けない理由＞

「がん検診の日時や場所に都合が合わないから」が約5割

厚生労働省「国民生活基礎調査」によると、5大がん(胃、肺、大腸、子宮頸、乳)における長野県の平均検診受診率は約48%で、「第2期信州保健医療総合計画」(2018～2023年)における目標値の50%に達していません。
 問8 あなたが考える「がん検診の受診率が低い理由」は何だと思えますか。当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

	R1年度 n=999		H28年度 n=916	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
がん検診の日時や場所に都合が合わないから	487	48.7	151	16.5
検診費用がかかるから	461	46.1	152	16.6
心配なときは医療機関を受診できるから	339	33.9	267	29.1
定期的に(何回も)受診するのは面倒だから	297	29.7	111	12.1
検査に伴う苦痛に不安があるから	271	27.1	111	12.1
がんであるとわかるのがこわいから	254	25.4	49	5.3
うっかり受診するのを忘れてしまっているから	151	15.1	56	6.1
がん検診の受け方がわからないから	138	13.8	48	5.2
がん検診の効果に疑問をもっているから	106	10.6	37	4.0
理由はない/わからない/考えたことがない	30	3.0	76	8.3

●「がん検診の日時や場所に都合が合わないから」が48.7%と最も多く、次に「検診費用がかかるから」(46.1%)、「心配なときは医療機関を受診できるから」(33.9%)となっている。



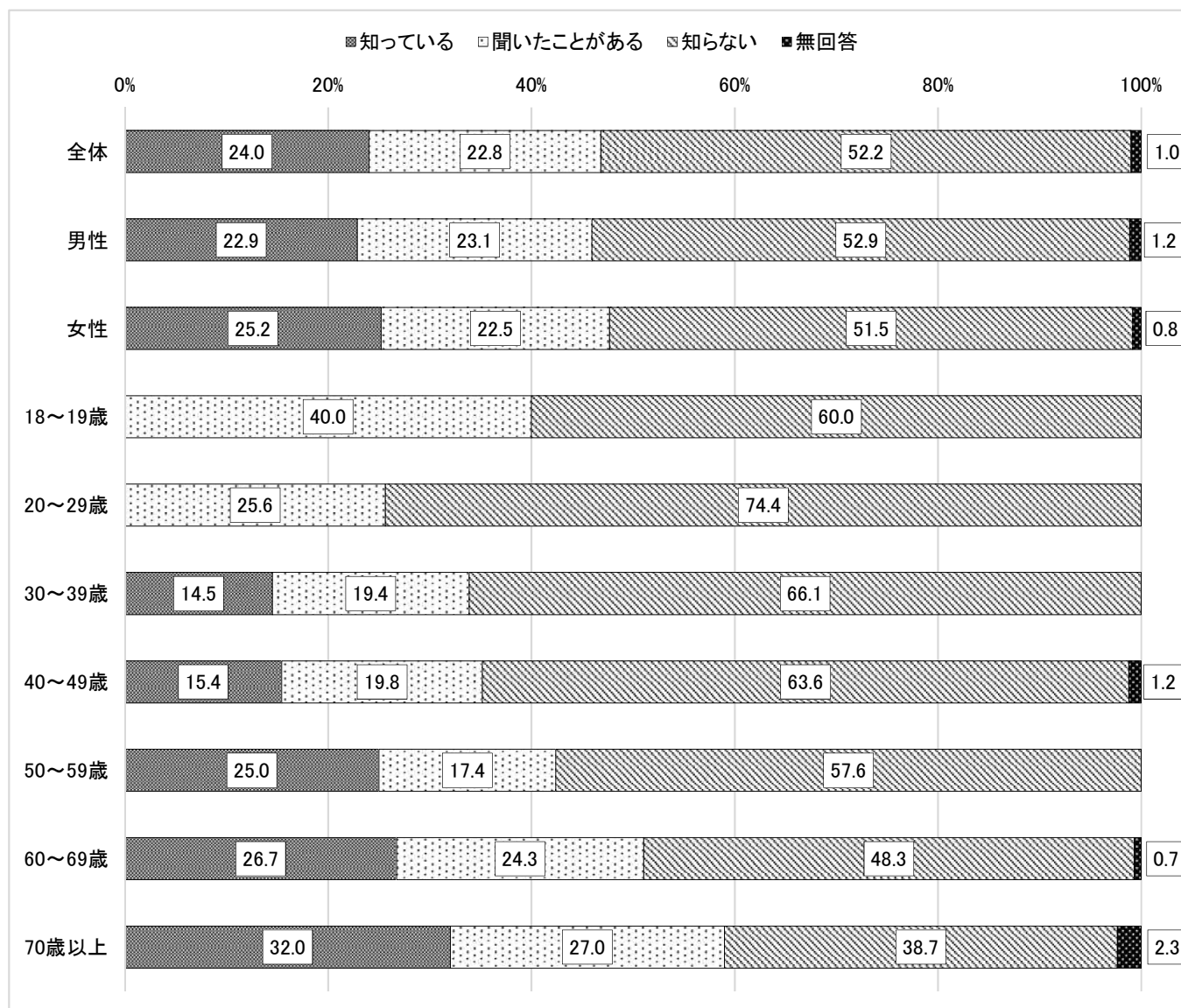
＜がん相談支援センターの認知状況＞

がん相談支援センターを「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた割合は5割弱

問9 県内には、がんに関する相談窓口として、がん診療連携拠点病院や地域がん診療病院などに「がん相談支援センター」が設置されております。あなたは「がん相談支援センター」をご存知ですか。当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

	R1年度 n=999		平成28年度 n=1,018	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
知っている	240	24.0	222	21.8
聞いたことがある	228	22.8	291	28.6
知らない	521	52.2	500	49.1
無回答	10	1.0	5	0.5

●「知っている」と「聞いたことがある」の割合は、年代が上がるにつれて高くなっており、20代では25.6%であるのに対し、70歳以上では59.0%となっている。

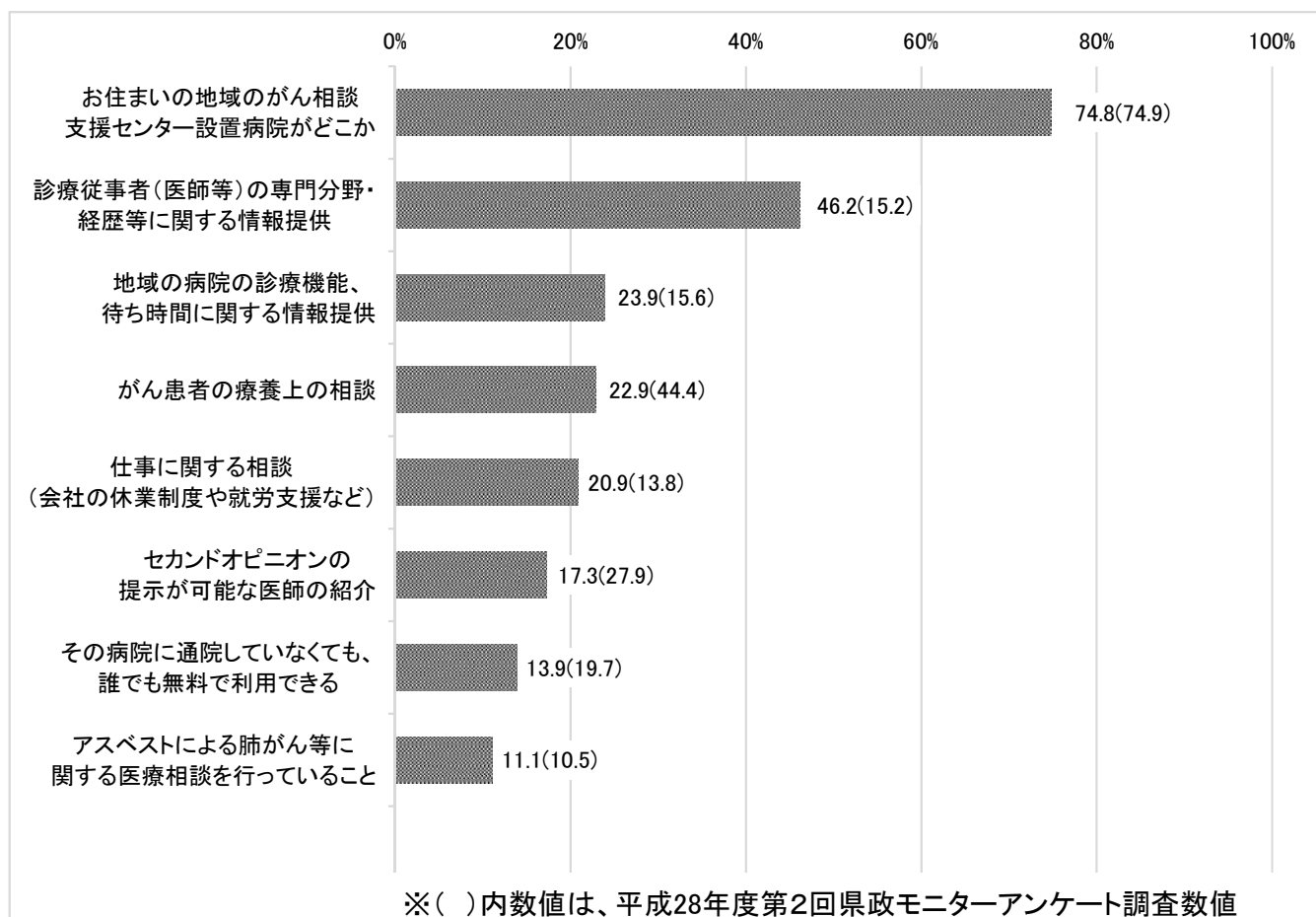


<がん相談支援センターの機能について知っていること>
 「居住地のがん相談支援センター設置病院の所在地(を知っている)」が7割超

問10 問9で「知っている」または「聞いたことがある」を選ばれた方にお伺いします。「がん相談支援センター」について、あなたがご存知のことを選んでください。(〇はいくつでも)

	R1年度 n=468		平成28年度 n=513	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
お住まいの地域の「がん相談支援センター」の設置病院がどこか	350	74.8	384	74.9
診療従事者(医師等)の専門分野・経歴等に関する情報提供を行っていること	216	46.2	78	15.2
地域の病院の診療機能、入院・外来の待ち時間に関する情報提供を行っていること	112	23.9	80	15.6
がん患者の療養上の相談を行っていること	107	22.9	228	44.4
仕事に関する相談(会社の休業制度や就労支援など)を行っていること	98	20.9	71	13.8
「セカンドオピニオン」の提示が可能な医師の紹介を行っていること	81	17.3	143	27.9
その病院に通院していなくても、誰でも無料で利用できること	65	13.9	101	19.7
アスベストによる肺がん等に関する医療相談を行っていること	52	11.1	54	10.5

●「お住まいの地域の「がん相談支援センター」の設置病院がどこか」が74.8%と最も多く、次に「診療従事者(医師等)の専門分野・経歴等に関する情報提供を行っていること」(46.2%)、「地域の病院の診療機能、入院・外来の待ち時間に関する情報提供を行っていること」(23.9%)となっている。



《信州の住まいについて》

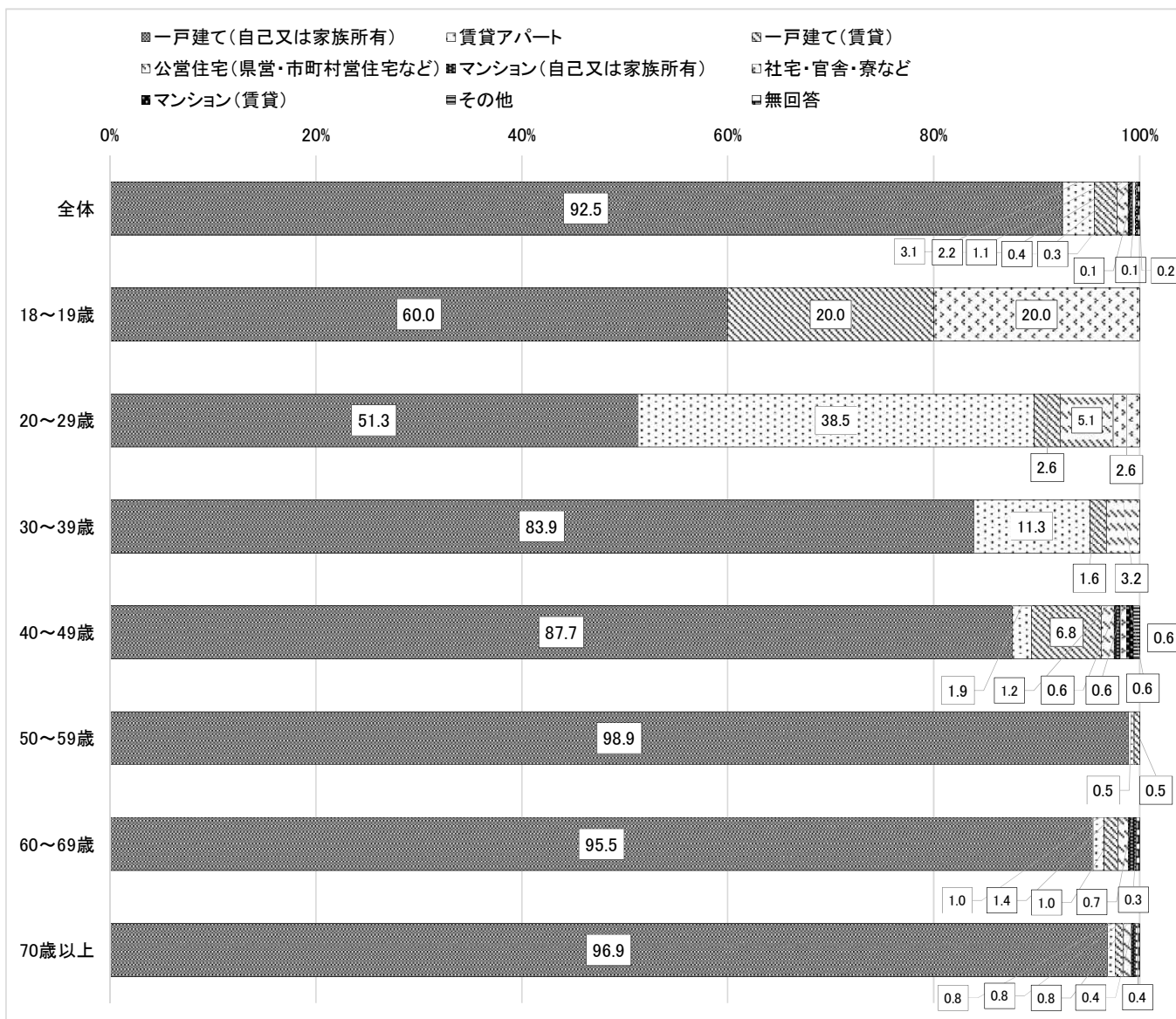
<住まいの現況>

「一戸建て(自己又は家族所有)」が約9割

問11 現在のお住まいについて、当てはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
一戸建て(自己又は家族所有)		924	92.5
賃貸アパート		31	3.1
一戸建て(賃貸)		22	2.2
公営住宅(県営・市町村営住宅など)		11	1.1
マンション(自己又は家族所有)		4	0.4
社宅・官舎・寮など		3	0.3
マンション(賃貸)		1	0.1
その他		1	0.1
無回答		2	0.2

●「一戸建て(自己又は家族所有)」が全体の92.5%と最も多い。年代別では、50歳以上のほぼ全員が「一戸建て(自己又は家族所有)」となっている。



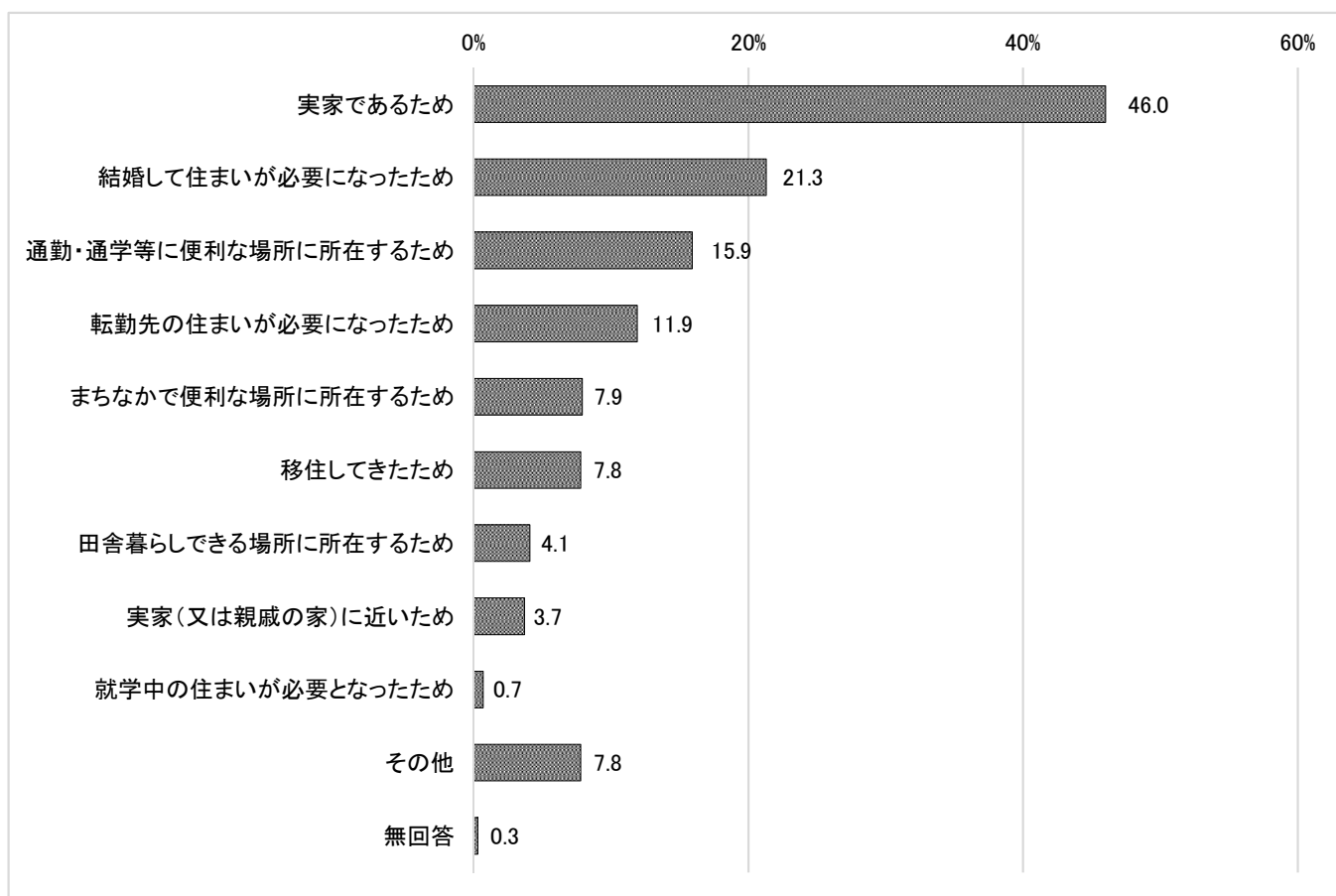
その他としては、「テナント併用住宅」等の回答が見られた。

<現在の住まいに居住したきっかけ>
「実家であるため」が4割超

問12 現在のお住まいに居住したきっかけ(理由)について、当てはまるものを選んでください。
(〇はいくつでも)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
実家であるため		460	46.0
結婚して住まいが必要になったため		213	21.3
通勤・通学等に便利な場所に所在するため		159	15.9
転勤先の住まいが必要になったため		119	11.9
まちなかで便利な場所に所在するため		79	7.9
移住してきたため		78	7.8
田舎暮らしできる場所に所在するため		41	4.1
実家(又は親戚の家)に近いため		37	3.7
就学中の住まいが必要となったため		7	0.7
その他		78	7.8
無回答		3	0.3

●「実家であるため」が46.0%と最も高く、次に「結婚して住まいが必要になったため」(21.3%)、「通勤・通学等に便利な場所に所在するため」(15.9%)となっている。



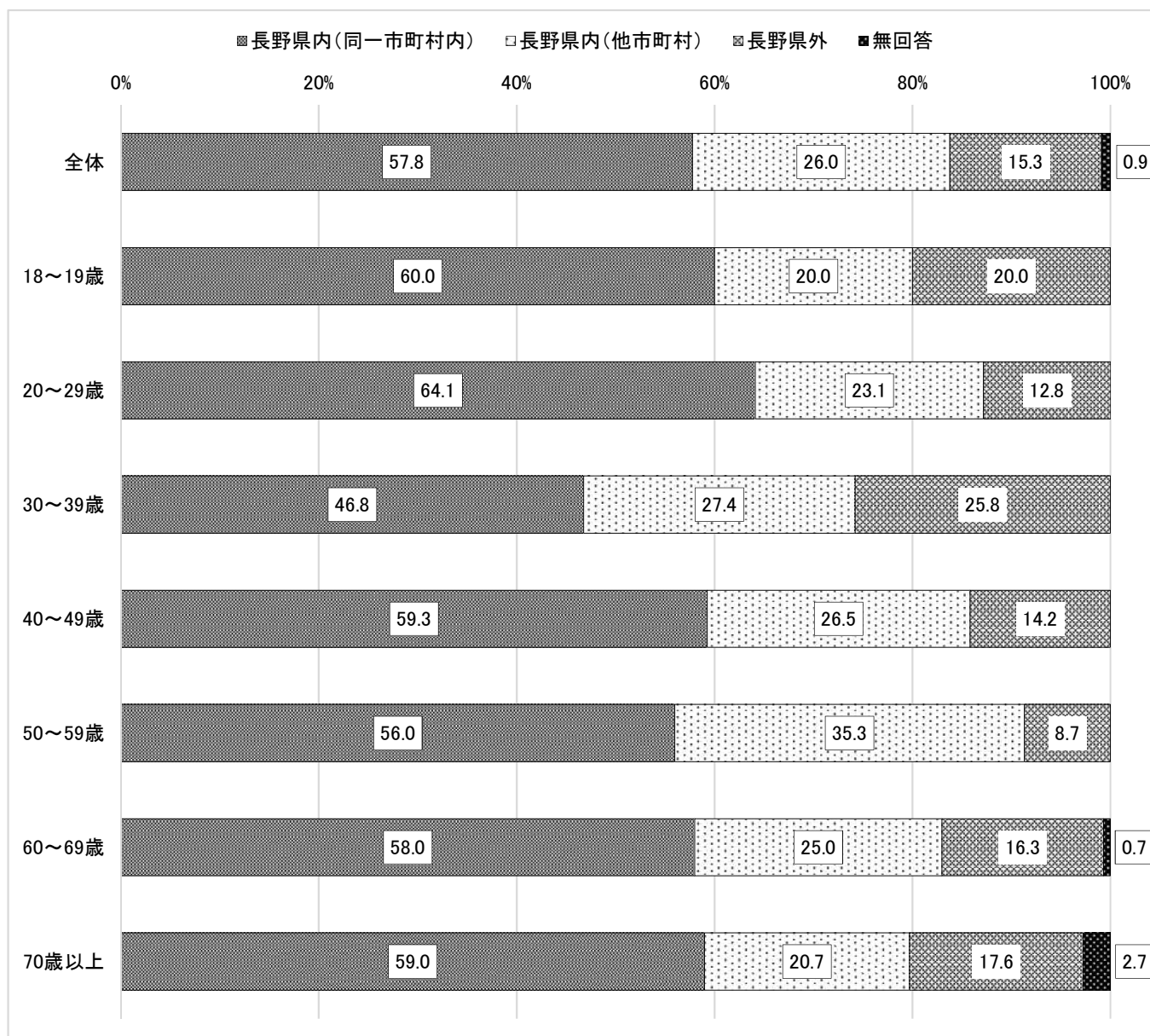
その他としては、「子供が成長したため」、「もとの住居で区画整理が行われたため」「実家等から土地を得たため」等の回答が見られた。

＜現在の住宅に住む前の居住地＞
「長野県内(同一市町村内)」が約6割

問13 現在の住宅に住む前はどちらにお住まいでしたか。(〇は1つ)
(※居住地の変更がない場合は、「長野県内(同一市町村内)」を選んで下さい。)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
長野県内(同一市町村内)		577	57.8
長野県内(他市町村)		260	26.0
長野県外		153	15.3
無回答		9	0.9

●「県内(同一市町村内)」が57.8%と最も高かった。年代別で見ると、30代を除き、「長野県内(同一市町村内)」5割超から約6割となった。

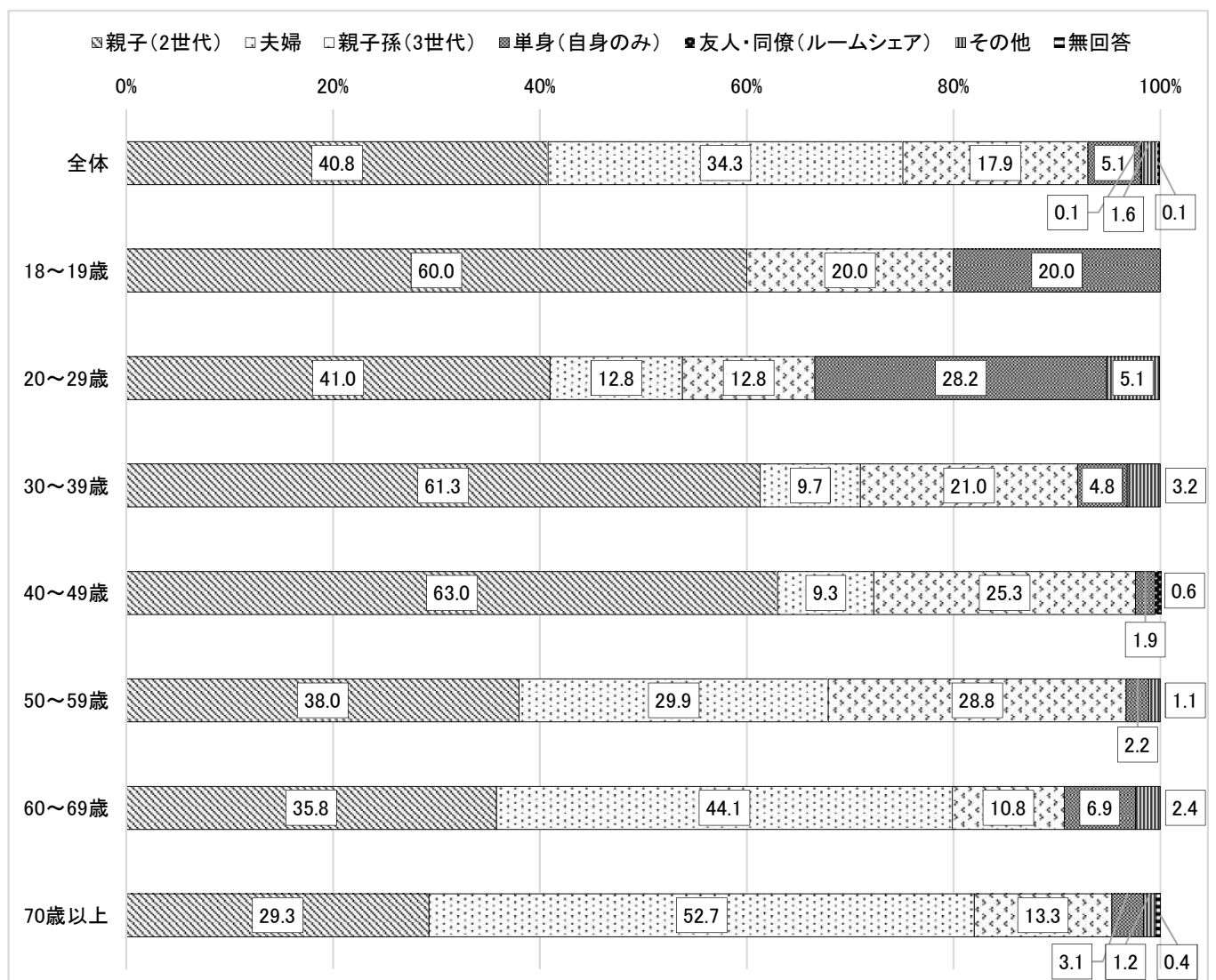


＜現在の住まいの同居者＞
「親子(2世代)」が約4割、「夫婦」が3割超

問14 現在のお住まいの同居者は、次のうちどれに当てはまりますか。(〇は1つ)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
親子(2世代)		408	40.8
夫婦		343	34.3
親子孫(3世代)		179	17.9
単身(自身のみ)		51	5.1
友人・同僚(ルームシェア)		1	0.1
その他		16	1.6
無回答		1	0.1

●「親子(2世代)」が40.8%と最も高く、次に「夫婦」(34.3%)、「親子孫」(17.9%)となっている。



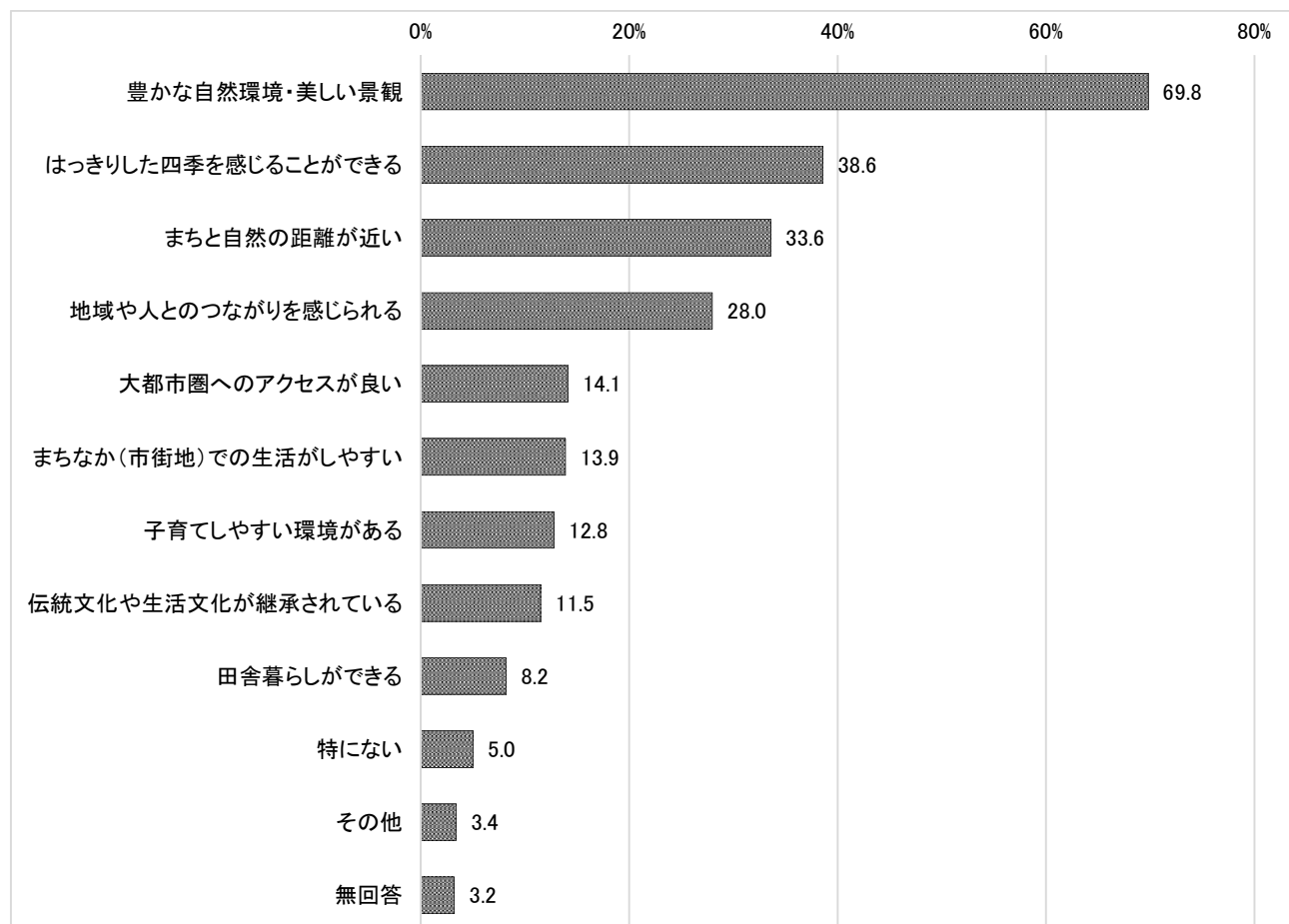
その他としては、「親・子・孫・祖父(母)等の4世代」、「自分と同居人」等の回答が見られた。

＜信州の住まいの中で特に良いと感じているところ＞
 「豊かな自然環境・美しい景観」が約7割

問15 信州の住まいの中で特に良いと感じているところについて、当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
豊かな自然環境・美しい景観		697	69.8
はっきりした四季を感じることができる		386	38.6
まちと自然の距離が近い		336	33.6
地域や人とのつながりを感じられる		280	28.0
大都市圏へのアクセスが良い		141	14.1
まちなか(市街地)での生活がしやすい		139	13.9
子育てしやすい環境がある		128	12.8
伝統文化や生活文化が継承されている		115	11.5
田舎暮らしができる		82	8.2
特にない		50	5.0
その他		34	3.4
無回答		32	3.2

●「豊かな自然環境・美しい景観」が69.8%と最も多く、次に「はっきりした四季を感じることができる(38.6%)」、「まちと自然の距離が近い(33.6%)」となっている。



その他としては、「大きな災害が少ないから」、「適度に街で適度に田舎だから」、「人や住家が密集しておらず、静かだから」等の回答が見られた。

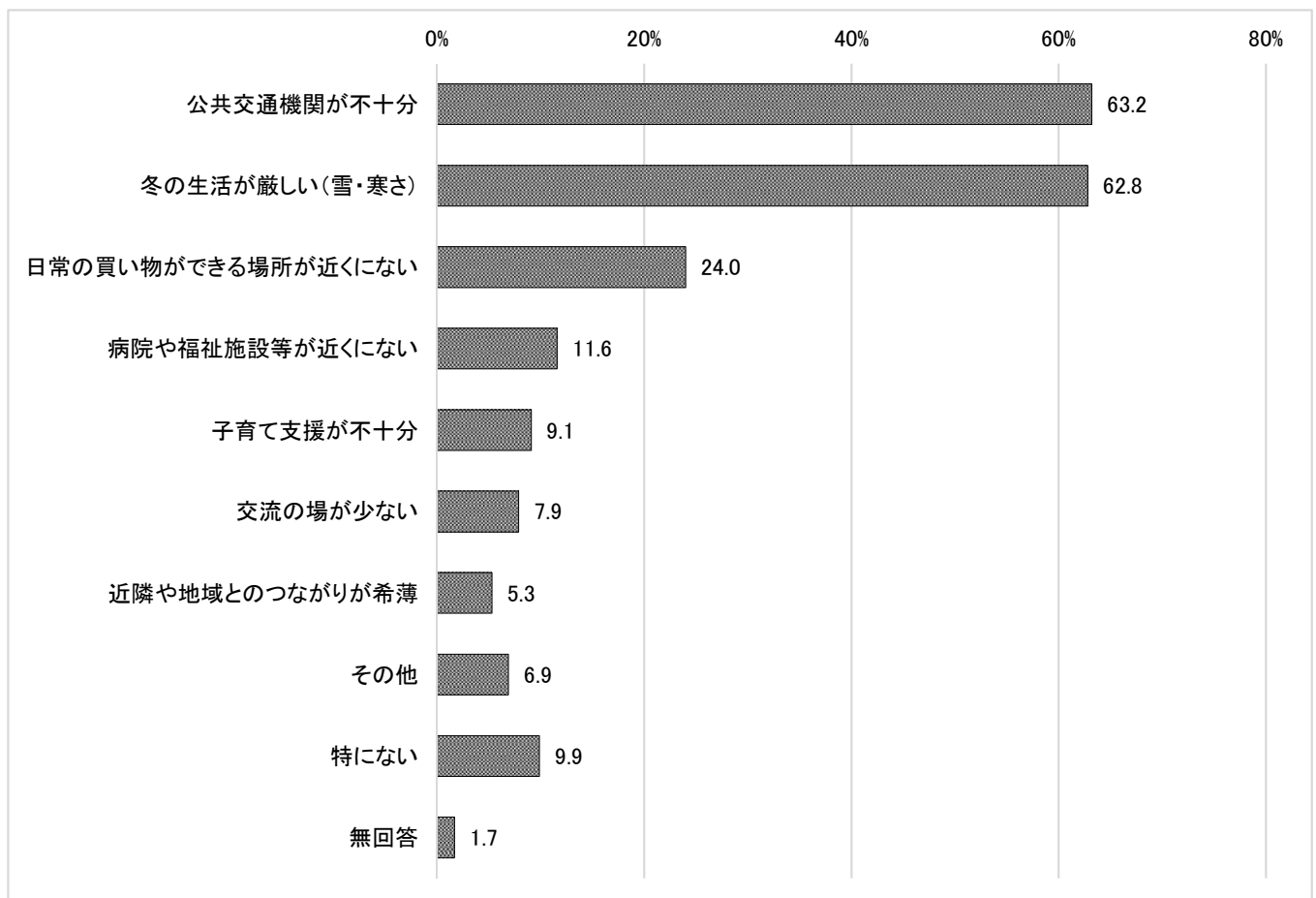
<信州の住まいの中で不便と感じているところ>

「公共交通機関が不十分」と「冬の生活が厳しい(雪・寒さ)」がいずれも6割超

問16 信州の住まいの中で不便と感じているところについて、当てはまるものを選んでください。
(○は3つまで)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
公共交通機関が不十分		631	63.2
冬の生活が厳しい(雪・寒さ)		627	62.8
日常の買い物ができる場所が近くにない		240	24.0
病院や福祉施設等が近くにない		116	11.6
子育て支援が不十分		91	9.1
交流の場が少ない		79	7.9
近隣や地域とのつながりが希薄		53	5.3
その他		69	6.9
特にない		99	9.9
無回答		17	1.7

●「公共交通機関が不十分」が63.2%と最も高く、次に「冬の生活が厳しい(雪・寒さ)」(62.8%)、「日常の買い物ができる場所が近くにない」(24.0%)となっている。



その他としては、「レジャー施設や芸術に触れられる場所が少ない」、「スーパー等が遠く、車がないと生活しにくい」、「既存のコミュニティの結びつきが強く、新しく来た者はその輪に入りにくい」等の回答が見られた。

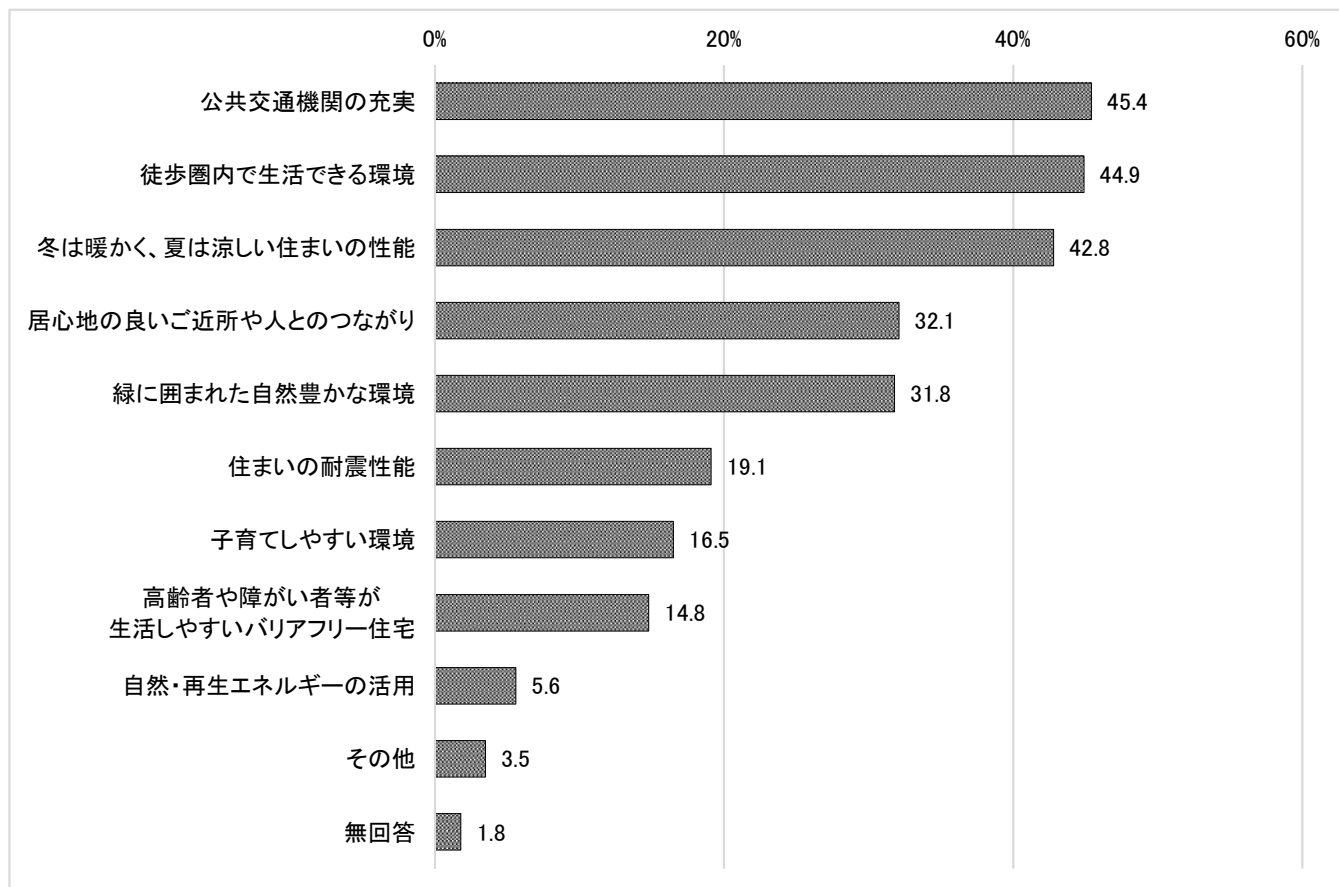
＜住まいを探す際に優先する項目＞

「公共交通機関の充実」、「徒歩圏内で生活できる環境」、「冬は暖かく、夏は涼しい住まいの性能」がいずれも4割超

問17 住まいを探す際に、優先する項目を選んでください。(〇は3つまで)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
公共交通機関の充実		454	45.4
徒歩圏内で生活できる環境		449	44.9
冬は暖かく、夏は涼しい住まいの性能		428	42.8
居心地の良いご近所や人とのつながり		321	32.1
緑に囲まれた自然豊かな環境		318	31.8
住まいの耐震性能		191	19.1
子育てしやすい環境		165	16.5
高齢者や障がい者等が生活しやすいバリアフリー住宅		148	14.8
自然・再生エネルギーの活用		56	5.6
その他		35	3.5
無回答		18	1.8

●「公共交通機関の充実」が45.4%と最も高く、次に「徒歩圏内で生活できる環境」(44.9%)、「冬は暖かく、夏は涼しい住まいの性能」(42.8%)となっている。



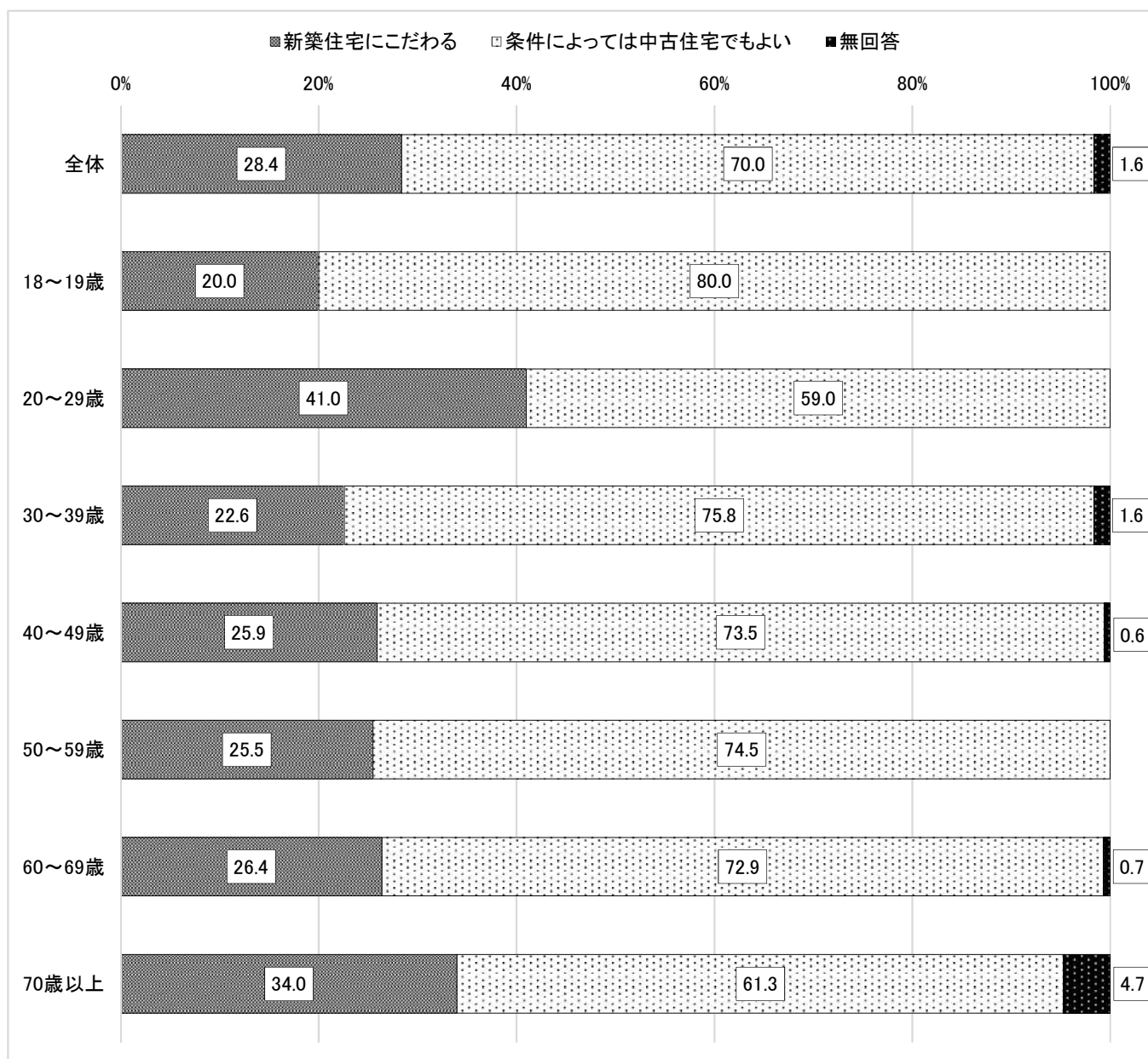
その他としては、「高齢になった際の生活のしやすさ」、「通勤・通学・通院のしやすさ(距離の近さ)」等の回答が見られた。

<住まいに関する意識(住宅の状態)>
 「条件によっては中古住宅でも良い」が約7割

問 18-1 住宅の状態について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
①条件によっては中古住宅でも良い		699	70.0
②新築住宅にこだわる		284	28.4
無回答		16	1.6

●「条件によっては中古住宅でもよい」が約7割となった。年代別では、20代において、「新築住宅にこだわる」割合が約4割と、他の年代と比べて高くなった。

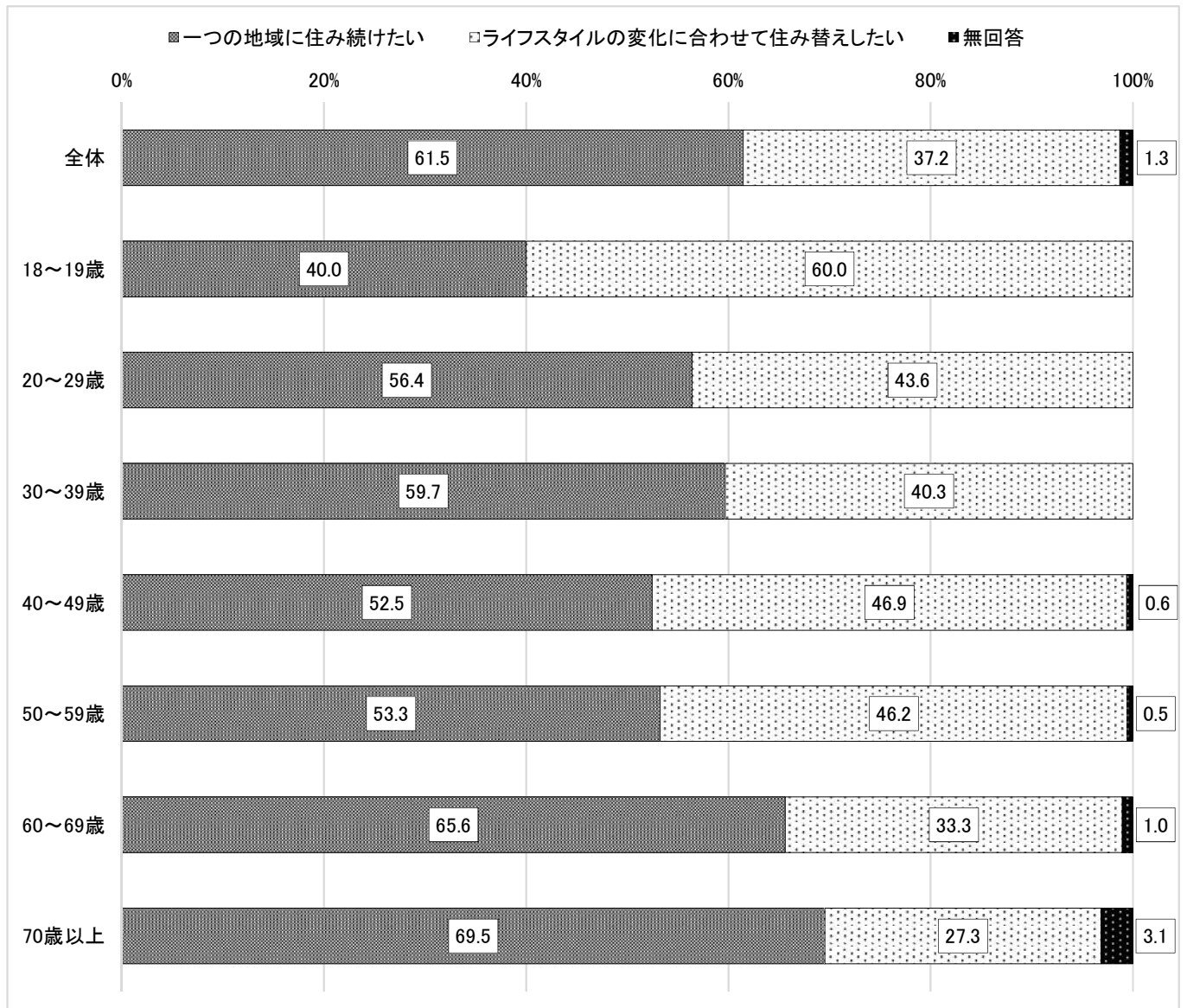


<住まいに関する意識(居住地)>
「一つの地域に住み続けたい」が約6割

問 18-2 居住地について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
①一つの地域に住み続けたい		614	61.5
②ライフスタイルの変化に合わせて住み替えしたい		372	37.2
無回答		13	1.3

●「一つの地域に住み続けたい」が約6割。年代別でみると、18～19歳を除き、いずれの年代でも「一つの地域に住み続けたい」が5割以上となっている。



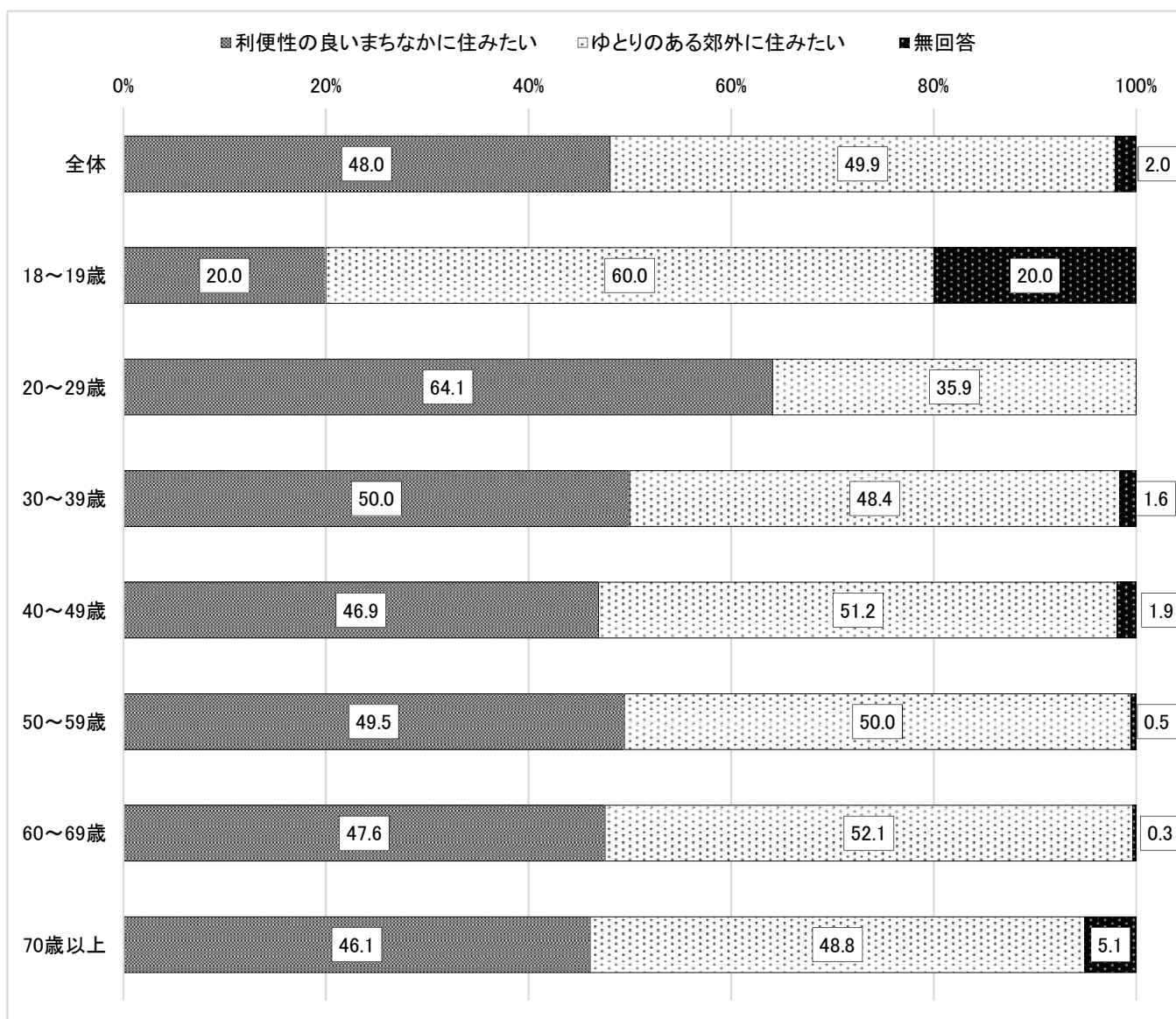
<住まいに関する意識(居住する場所)>

「ゆとりのある郊外に住みたい」と「利便性の良いまちなかに住みたい」がいずれも約5割

問 18-3 居住する場所について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
①利便性の良いまちなかに住みたい		480	48.0
②ゆとりのある郊外に住みたい		499	49.9
無回答		20	2.0

●10代と20代を除き、「まちなかに住みたい」と「郊外に住みたい」がほぼ同率となった。

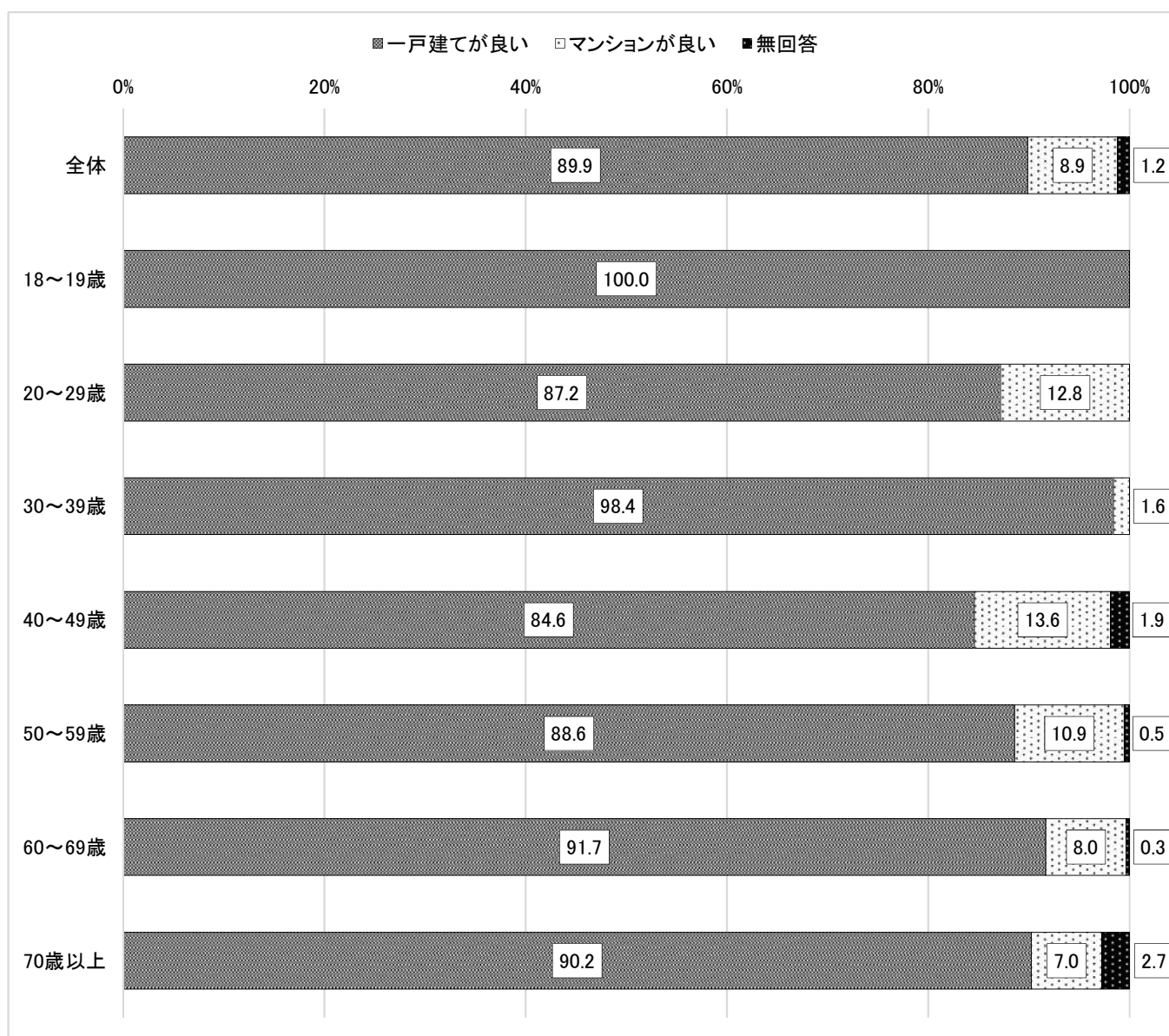


<住まいに関する意識(住宅の種類)>
「一戸建てが良い」が約9割

問 18-4 住宅の種類について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
①一戸建てが良い		898	89.9
②マンションが良い		89	8.9
無回答		12	1.2

●いずれの年代も、8割以上が「一戸建てが良い」となっている。

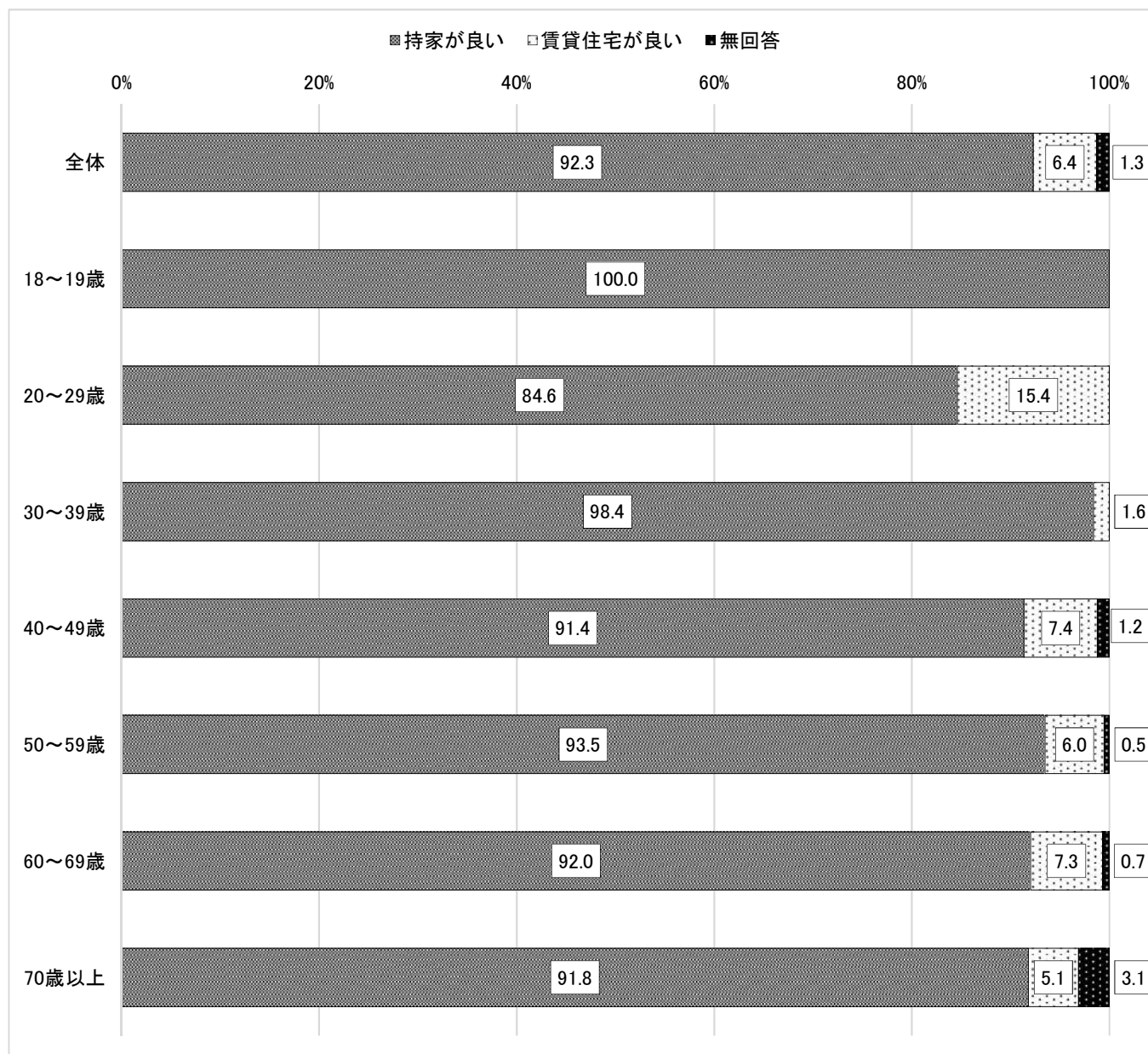


＜住まいに関する意識(住宅の所有形態)＞
「持家が良い」が約9割

問 18-5 住宅の所有形態について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	回答数 (人)	割合 (%)
①持家が良い	922	92.3
②賃貸住宅が良い	64	6.4
無回答	13	1.3

●「持家が良い」が92.3%、「賃貸住宅が良い」が6.4%。年代別では、20代で「賃貸住宅が良い」が15.4%と、他の年代に比べ高くなっている。

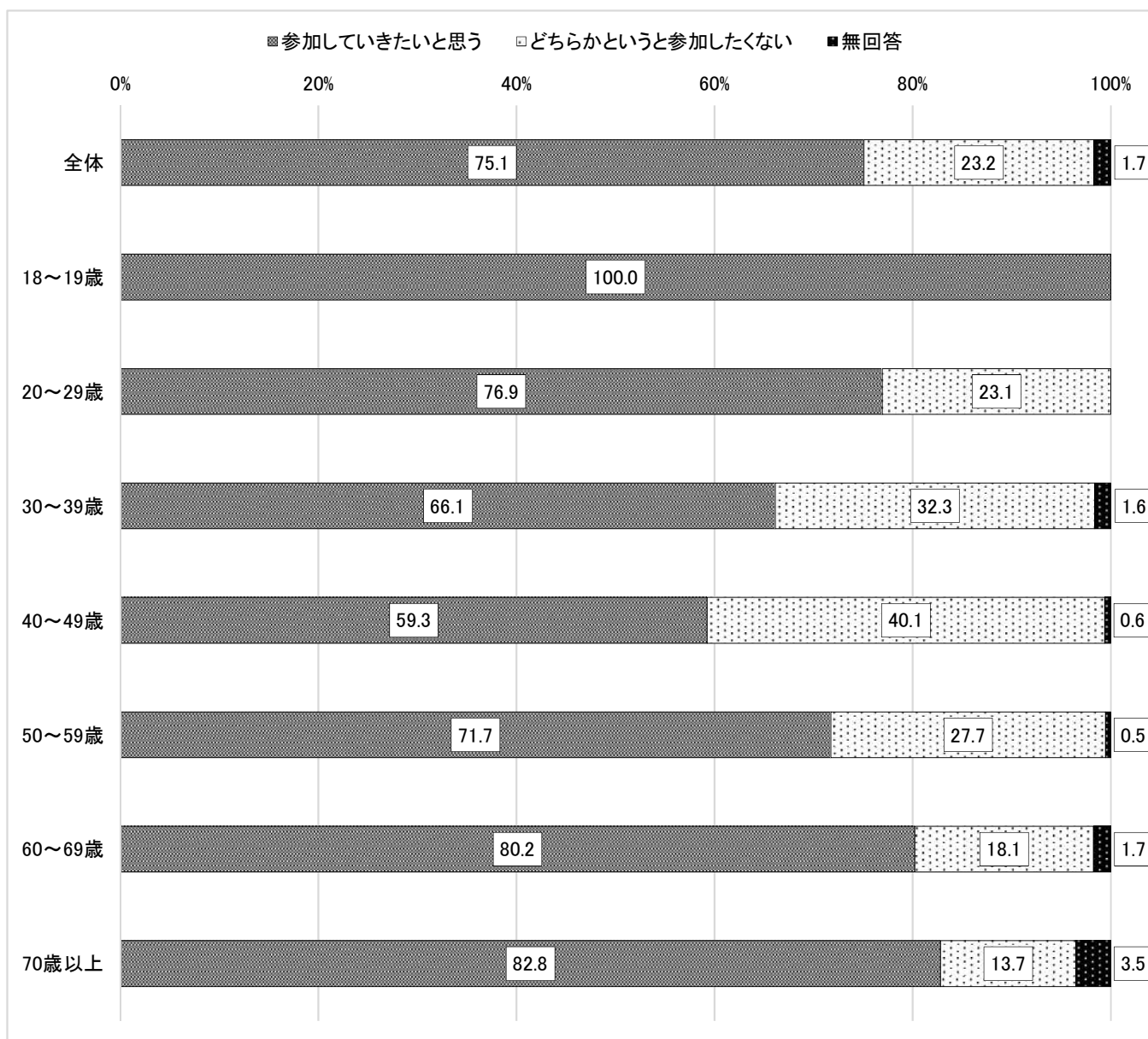


<住まいに関する意識(地域の交流)>
 「参加していきたいと思う」が7割超

問 18-6 地域の交流について、あなたの考えは①・②のどちらに近いか選んでください。

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
①参加していきたいと思う		750	75.1
②どちらかというとなら参加したくない		232	23.2
無回答		17	1.7

●「参加していきたいと思う」が75.1%、「参加したくない」が23.2%。年代別では、40代の「参加していきたいと思う」が他の年代に比べて低くなっている。



＜県内で将来実現したい暮らし方＞
「まちなか暮らし(市街地)」が3割超

問19 あなたが県内で将来してみたい暮らしについて、当てはまるものを選んでください。
(〇はいくつでも)

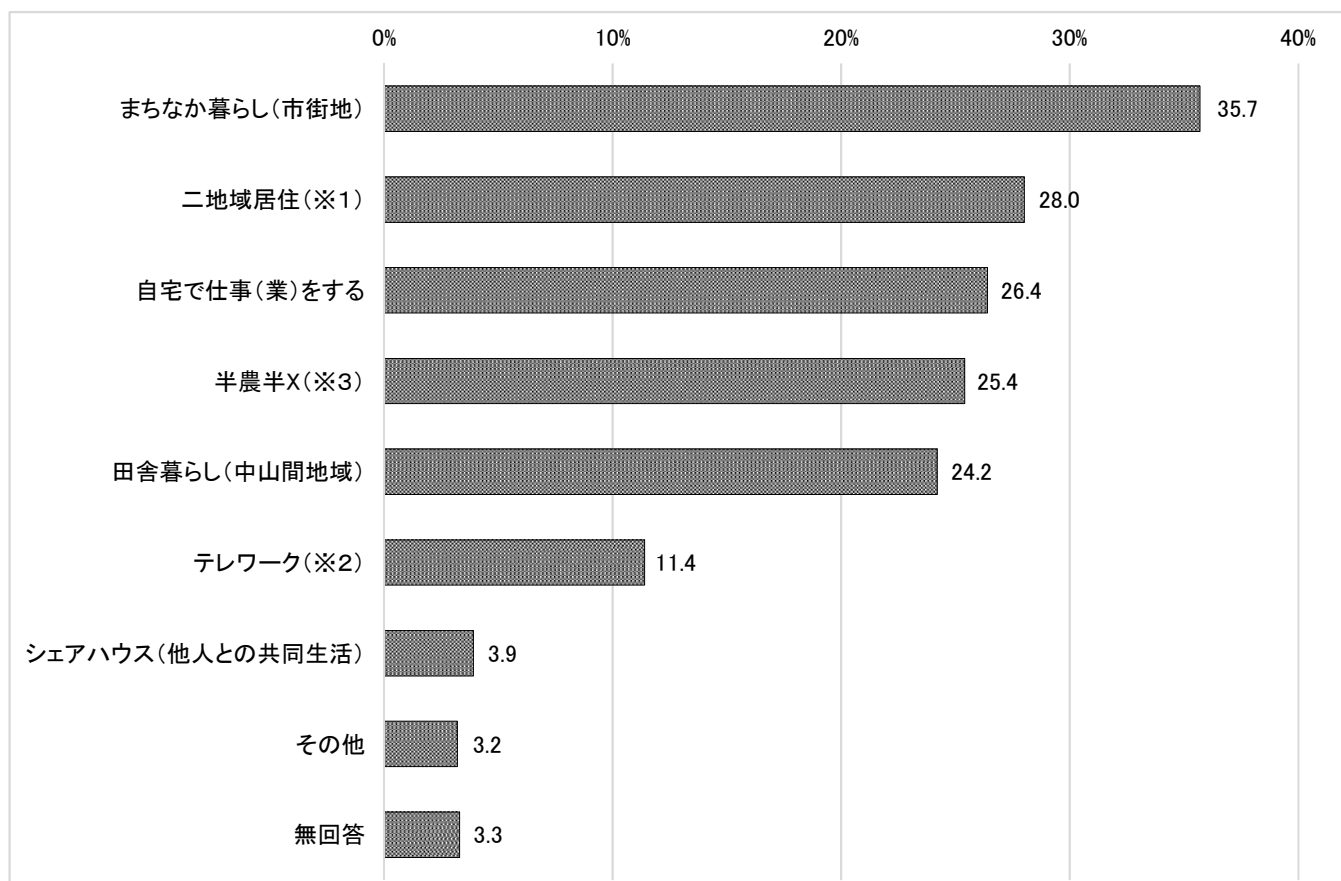
	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
まちなか暮らし(市街地)		357	35.7
二地域居住(※1)		280	28.0
自宅で仕事(業)をする		264	26.4
半農半X(※2)		254	25.4
田舎暮らし(中山間地域)		242	24.2
テレワーク(※3)		114	11.4
シェアハウス(他人との共同生活)		39	3.9
その他		32	3.2
無回答		33	3.3

※1 週末や一年のうちの一定期間を別の地域で過ごすこと

※2 自給(農)と、自分の生業(X)を組み合わせることで生計を立てること

※3 情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方

●「まちなか暮らし(市街地)」が35.7%と最も多い。次に、「二地域居住」(28.0%)、「自宅で仕事(業)をする」(26.4%)となっている。



その他としては、「家庭菜園をしながら暮らしたい」、「獣害のないようにしたい」等の回答が見られた。

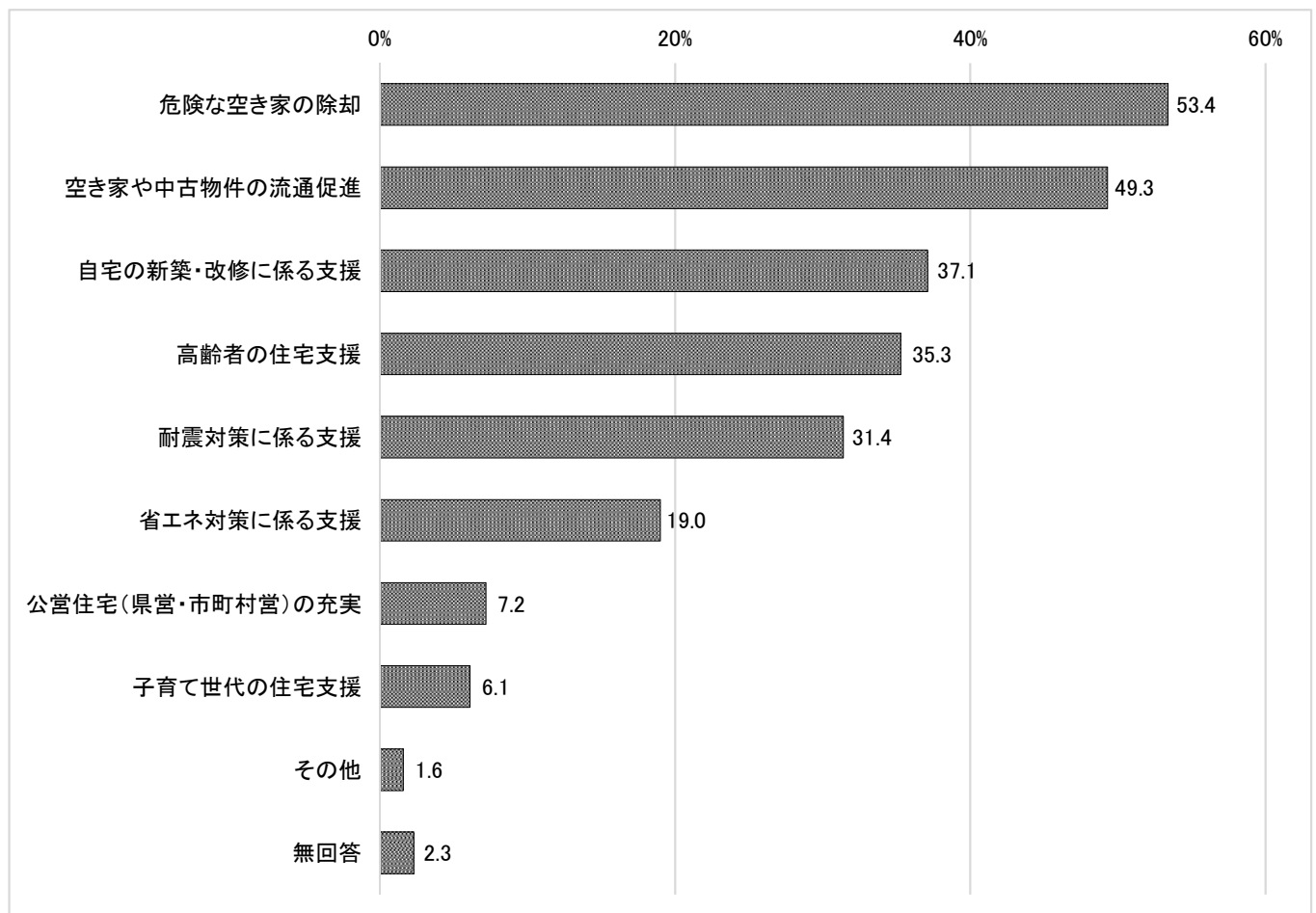
＜住まいに関する重要な施策＞

「危険な空き家の除却」が5割超、「空き家や中古物件の流通促進」が約5割

問20 住まいに関する施策のうち、特に重要と思われるものについて当てはまるものを選んでください。
(○は3つまで)

	n=999	回答数 (人)	割合 (%)
危険な空き家の除却		533	53.4
空き家や中古物件の流通促進		493	49.3
自宅の新築・改修に係る支援		371	37.1
高齢者の住宅支援		353	35.3
耐震対策に係る支援		314	31.4
省エネ対策に係る支援		190	19.0
公営住宅(県営・市町村営)の充実		72	7.2
子育て世代の住宅支援		61	6.1
その他		16	1.6
無回答		23	2.3

● 「危険な空き家の除却」が全体の53.4%と最も多く、次に「空き家や中古物件の流通促進」(49.3%)、「自宅の新築・改修に係る支援」(37.1%)となっている。



その他としては、「行政が、空き家問題に積極的に介入してほしい」等の回答が見られた。